

工事設計図書作成の手引き〔案〕農地

— 工事設計書作成の標準化のために —

平成16年4月制定
平成17年4月改訂
平成22年7月改訂
平成28年7月改訂

静岡県交通基盤部
(農地技術研究会設計積算分科会)

目 次

はじめに

第1章 設計書の作成

1-1	設計図書等の様式一覧	2
1-2	設計書作成の要点について	3
1)	設計書の伺い	3
2)	表紙	3
3)	位置図	3
4)	工事概要表	3
5)	明細書	3
(1)	「工事工種の体系化」の適用	3
(2)	工事工種の体系ツリー（土木工事）	4
(3)	「工事工種の体系用語」	4
(4)	明細数量の単位及び数量計上の数位	4
(5)	細別レベルの作成	4
(6)	土工の積算について	5
(7)	仮設工の積算について	14
(8)	構造物の計上方法	21
(9)	複数の工区、路線等がある場合の計上方法	21
(10)	既設構造物の撤去・運搬・処理費の計上方法	21
6)	その他	22

第2章 設計図の作成

1	図面の作成及び着色の留意事項	
1)	共通事項	23
2)	個別事項	24

第3章 積算資料の作成

留意事項

1)	共通事項	25
2)	個別事項	26

第4章 設計図書の作成部数等について 27

第5章 設計・積算の根拠資料の管理について 28

第6章 資料集

- 資料-1 工事工種体系ツリー
- 資料-2 工事工種の体系用語定義集
- 資料-3 積算に用いる単位、数位
- 資料-4 積算のチェック（審査）にかかる留意点

第7章 積算資料の様式・作成例

はじめに

本書は、工事設計図書作成に関し、様式、記載内容、積算方法等の標準化を図ることを目的としている。設計図書の作成方法は、『設計積算標準資料（工事編）[農地] 第2章 設計図書作成に関する基準』により定められているが、これに定めがない事項や運用細目については本書を参考にする。

標準化するねらいは、以下の点である。

- 1) 誰が積算しても標準化された同じような積算となるものにする。
- 2) 工事目的物が明解に理解できるものにする。
- 3) 積算・契約に関する図書類を一貫した統一のとれた形態とする。
- 4) 積算の内容を発注者、受注者にとってわかりやすいものにする。

なお、本書の内容は、一般的な土木工事を対象にしたものであるので、工事内容から判断して本書により難しい場合は、類似した他の工事事例等を参考にする。

また、本書では仕様書類の作成は対象としていない。仕様書類の作成は、上述の基準及び作成事例集（農水省、農地技術研究会）等を参考にする。

本書の作成にあたって、以下の資料を参考とした。

- 1 国営土地改良事業等請負工事における「工事工種の体系化」について
- 2 平成27年度「土地改良工事標準積算マニュアル（案）」
農林水産省農山村振興局整備部設計課施工企画調整室
- 3 平成27年度「土地改良工事数量算出要領（案）」
農林水産省農山村振興局整備部設計課施工企画調整室

第1章 設計書の作成

1 設計図書等の様式一覧

項目		当初実施 設計書	変更実施 設計書	縦覧用 設計書	契約用 設計書	出来型 設計書
1	設計書の伺い	SP	○	○	—	—
2	実施設計書のチェック表	—	○	△	—	—
3	実績報告書（農地のみ）	—	—	—	—	○
4	実施設計書鏡（表紙）	SM	○	○	○	○
5	位置図	GIS	○	△	○	○
6	工事概要表（農地のみ）	—	○	○	○	○
7	変更理由書	SM or —	—	○	—	—
8	変更指示書（写）	—	—	○	—	—
9	変更対照表	SM	—	○	—	—
10	請負費構成表	SM	○	○	○	○
11	工事費内訳表	SM	○	○	○	○
12	施工単価表 明細表（M明細） 単価表（T単価）	SM	○	○	○	○
13	数量計算一覧表	SM	△	△	—	△
14	労務費補正表	SM	△	△	—	△
15	機械損料補正表	SM	△	△	—	△
16	コメント表	SM	△	△	—	△
17	施工条件一覧表	SM	△	△	—	△
18	労務集計表	SM	△	△	—	△
19	資材集計表	SM	△	△	—	△
20	機械損料集計表	SM	△	△	—	△
21	入力単価一覧表	SM	△	△	—	△
22	計算式	SM	○	○	—	○
23	施工パッケージ区分一覧表 （農地のみ平成28年10月より）	SM	○	○	○	○
24	共通仕様書（省略仕様書）	SM or —	○	○※	○	○
25	特記（特別）仕様書	SM or —	○	○※	○	○
26	積算基準の「見積参考資料」	SM	△	—	△	—
27	景観配慮チェックシート	SM	○	—	—	—
28	生産性向上カルテ	SM	○	—	—	—
29	施工条件明示事項	SM	○	○※	○	○
30	図面	—	○	○	○	○

★ 帳票を作成するシステムを次のとおり記号で区分している。

SP … 執行管理システムからの帳票

SM … 設計積算システムからの帳票

GIS … 地理情報システムからの帳票

— … その他

★ △は必要に応じて添付する。

★ 工事別工事のある工事設計書（農地のみ）は、表中の着色部を各工事1セットと扱う。

★ 特記（特別）仕様書、施工条件明示事項で変更がない場合については、省略する旨を記載した紙面を添付すること。

★ 施工条件明示事項については、特記（特別）仕様書に全ての条件明示がされている場合は、省略できるものとする。

1-2 設計書作成の要点について

設計積算システムを利用した場合の設計書作成の要点を以下に示す。なお、手書き設計書の場合も積算システムの様式によるものとする。

1) 「設計書の伺い」

(1) 様式は、執行管理システムの「設計登録」の帳票による。

2) 「実施設計書鏡」

(1) 様式は、設計積算システムの「印刷帳票：積算書鏡」による。

(2) 工事概要は以下のとおり記載する。

a. 代表的な工事内容を記載する。(標準として1～3種目)

b. 施設、構造物等の単位は、「式」の使用を避け、「箇所」、「基」等を使用する。

3) 「位置図」

(1) 設計積算システムを使用した場合は、地理情報システムとの連携にて自動生成される位置図を用いる。

(2) (1)以外の場合は、国土地理院発行の二万五千分の一、もしくは五万分の一の地形図を標準とする。また、地区概要図も使用可とし、ポンチ絵等を補足説明図として添付できる。

(3) 施工箇所(路線)を旗上げる。(線色：赤)

(4) 工事名(略称でよい)、工事内容(代表工種・数量)を記入する。(文字色：赤)

(5) 方位を入れる。

4) 「工事概要表」

(1) 様式は、「設計積算標準資料」の別紙②を使用する。

(2) 記入上の注意事項

a. 設計書番号

積算書の工事番号を記入(執行管理システムで付与された番号)

b. 工事量

積算書の工事概要を転記(施設、構造物等の単位は、「式」の使用を避ける)

c. 工期

「平成〇年〇月〇日まで」

d. 概要図

代表的な標準図を添付

e. 設計諸元

水路、道路、ほ場整備、パイプライン、地すべりは、「設計積算標準資料」の工事概要表記載例を参照

f. 摘要

関連工事等、特記事項の要約を記入

g. 請負工事費及び変更請負工事費は記入しない。(項目削除)

5) 「明細書」

(1) 「工事工種の体系化」の適用

工事費の積算に「工事工種の体系化」を適用し、積算書の構成、表示方法の標準化を図る。

工事工種の体系化は、積算書における階層数や階層の定義及び細分化方法の構成を規定した「工事工種の体系ツリー」と工事数量表及び積算書における用語名称や数量単位等の表示方法を規定した「工事工種の体系用語」により構成される。

(注：国土交通省及び県土木は平成8年度、農水省直轄事業は平成15年度から適用)

(2) 工事工種の体系ツリー（土木工事）

a. 次の工種は、原則として資料-1「工事工種体系ツリー」に基づき明細書を作成する。

工 種	工 種
ほ場整備工事	畑かん施設工事
農用地造成工事	P C 橋工事
農道工事	橋梁下部工事
水路トンネル工事	機場下部工事
水路工事	地すべり防止工事
河川及び排水路工事	仮設工
管水路工事	

* 設計積算システム（SMILES）には「工種体系ツリー図」が用意されている。

* 仮設工に関する体系ツリーは各工種の下部にも追加されている。

b. 体系ツリーの各階層レベルの定義

階層名称	内 容	備 考
工 種	工事の種別 (例) ほ場整備工事	
種 別	工種レベルを構成するもののうち作業単位名、構造物名等の総称 (例) 土工 擁壁工 舗装工	補助的な表示は、工区、路線など
種 別	種別レベルを細分した作業単位名、構造物名等 (例) 掘削工 プレキャスト擁壁工 アスファルト舗装工	補助的な表示は、型名、号数など
細 別	工事施工上の作業単位、材料単位名等、明細書に数量を表示すべき区分 (例) 土砂掘削 プレキャストL型擁壁 表層 細別レベルを構成する作業単位、規格には材料単位等の材質、規格並びに契約上明示する条件等	体系用語を適用する

c. 体系ツリーに存在しない項目の取扱い

体系ツリーの各項目は、工事工種の特徴を踏まえ、出来る限り多数の項目を提示することになっているが、工事によっては体系ツリーで定義されていない項目を使用する場合もある。その場合は、追加したい項目を「工種レベル」～「細別レベル」の各項目の最後尾に追加し対応する。

(3) 「工事工種の体系用語」

設計書で使用する用語は、原則として「工事工種の体系用語」（資料-2）とする。

体系用語には、従来とは定義が異なるものがあるので注意する。（たとえば土工の床掘）

(4) 明細数量の単位及び数量計上の数位

数量の単位及び数位は、（資料-3）による。

(5) 細別レベルの作成

- 設計積算システムにおける体系ツリーの細別レベルは、施工単価（略称：N単価）、特別単価（略称：T単価）、明細表（略称：M明細）及び共通単価（資材等価格）等により構成される。

(6)土工の積算について

a. 土工の数量算出項目：掘削、盛土、床掘、埋戻、整形工、作業残土処理工

①掘削、盛土、床掘、埋戻、整形工

区分	「検収の対象となる土工」(=本体土工)	「検収の対象とならない土工」(=作業土工)
数量算出項目	掘削 盛土 整形工(掘削・盛土部の法面仕上げ)	床掘 埋戻 整形工(基面整正、法面荒仕上げ等)注1
計上方法	計上する系統は、各工種の体系ツリー(資料-1)による	
	(例) ほ場整備…整地工の系統に計上 農道工事…土工の系統に計上 水路工事…土工の系統に計上	基本的に各構造物の系統に計上する。 但し、管水路工事及び畑かん施設工事は、「土工」の系統に計上する。
積算単位	数量単位	数量単位
契約単位	数量単位 注2	1 式注3

注1 積算するときは、床掘の費用に含めて計上する。

注2 「検収の対象となる土工」の契約単位は「数量単位」であるが、必ずしもこの数量単位により検収することを意味するものではない。

注3 「契約単位」の「1式」表記は、設計積算システム SMILES では対応できないので、必要に応じて検収する必要のない旨を設計書内訳書や特別仕様書等に明示すること。

② 残土処理工

数量算出項目	作業残土処理工
計上方法	計上する系統は、各工種の体系ツリー(資料-1)によるが、基本的に工事全体で一括して本体土工の系統に計上する。
費用内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・運搬費 ・残土受入地での整地作業 ・残土処分費 ・仮置場から搬出する場合には、仮置場での積込、仮置場からの運搬を含む。
積算単位	数量単位
契約単位	1 式 注1

注1 「契約単位」の「1式」表記は、設計積算システム SMILES では対応できないので、必要に応じて検収する必要のない旨を設計書内訳書や特別仕様書等に明示すること。

(説明)

「作業残土処理工」とは、本体土工(掘削)及び構造物の築造及び撤去のために行う作業土工(床掘)において発生した残土の処理作業のことである。

発生した残土は、工事現場から搬出するに当たって、他の工事現場や土捨場などの受入れ先が規定される場合が多い。このため、発生した残土の「搬出」と「処分」に関する作業は、作業土工とは別に「作業残土処理工」を設ける。

ただし、作業土工と同様に個々の目的物に作業残土処理工を設けると、目的物ごとの残土の搬出・処分を規定することになり、受注者の施工手段に関する任意性を阻害することになる。従って、作業土工に伴う残土処理工は個々の目的物に従属させず、本体土工の体系(土工(区分レベル))に組み入れ、工事全体の土工に起因し発生する残土の合計をもって契約対象とする。ただし、数量の検収が難しいため、契約では数量の明示はせず、一式で表示する。

「作業残土処理」における土量の算出に当たっての埋戻必要土量は、土量換算係数(自然状態)を考慮する。建設発生土受入地への搬入処理において、建設発生土受入地が複数存在する場合は、それぞれの建設発生土受入地毎に区分し算出する。

b. 掘削・床掘にかかる数量算出区分

「掘削」とは、現地盤線から施工基面までの土砂等を掘り下げる箇所であり、埋戻（基礎も含む）を伴わないものである。

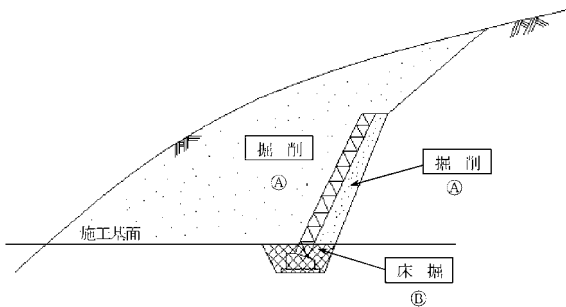
また、「床掘」とは、構造物の築造または撤去を目的に、現地盤線または施工基面から土砂等を掘り下げる箇所であり、埋戻（基礎も含む）を伴うものである。

出来高で受取る断面については掘削とし、出来高が要らないものは床掘とする

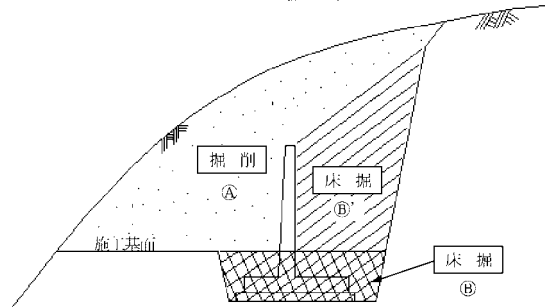
- 「床掘」の構成費用は、以下のとおり。（「工事工種の体系用語定義集」より）
- ・掘削・積込費（補助労務を含む）
 - ・破砕片除去費及び集積押土費（岩石の場合）
 - ・基面整正費
 - ・法面荒仕上げ費
 - ・仮置を行う場合、仮置場への運搬・整地費を含む。

具体的な算出区分の例は、次のとおりである。

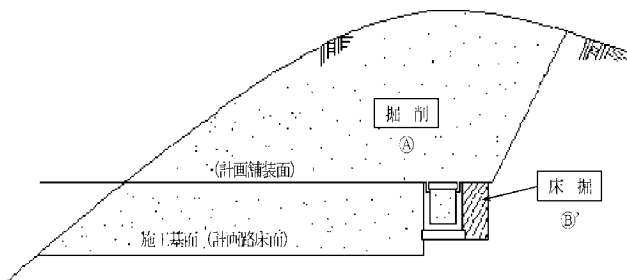
積みブロック擁壁の場合



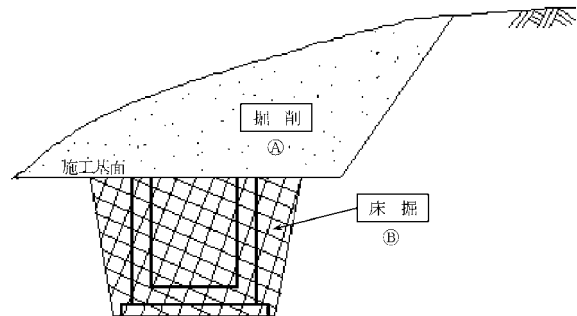
逆T擁壁の場合



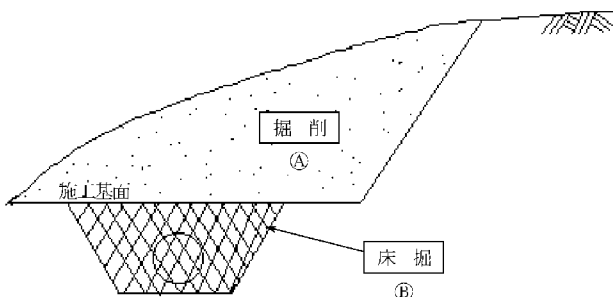
農道の場合



開水路の場合



管水路の場合



記号	数量算出項目	実作業
①	掘削	掘削（地山）
②	床掘	掘削（床掘）
②'	床掘	掘削（地山）

※②' は埋戻が伴うため、数量算出項目は床掘として計上するが、積算は掘削（地山）で行う。

c. 掘削・床掘の積算適用標準

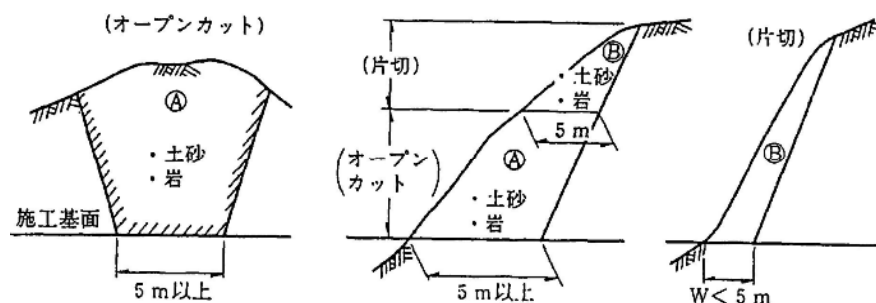
土 砂			
区 分		適 用 歩 掛	対応体系用語（細別）
掘 削	オープンカット	ブルドーザ掘削押土 バックホウ掘削（地山の掘削積込）	土砂掘削
	片切	人力併用バックホウ方切掘削	
床 掘		ブルドーザ掘削押土 バックホウ掘削（床掘）※ バックホウ掘削（地山の掘削積込）※ クラムシェル掘削	床 掘 ※【摘要】2を参照

岩				
区 分		適 用 歩 掛	対応体系用語（細別）	
掘 削	オープンカット	リッパドーザ岩掘削 火薬併用リッパドーザ岩掘削 大型ブレーカ岩掘削	軟岩掘削 硬岩掘削	
		片切		人力併用機械片切岩掘削 火薬併用機械片切岩掘削
				リッパドーザ岩掘削 火薬併用リッパドーザ岩掘削 大型ブレーカ岩掘削 人力併用機械片切岩掘削 火薬併用機械片切岩掘削

注：機種選定は『設計積算標準資料(工事編)【農地】』参照のこと

【摘要】

1. 掘削」における「オープンカット」及び「片切」の細別は下図による。



オープンカット	上左図のように、切取面が水平もしくは緩傾斜を成すように施工できる場合で、切取幅5.0m以上、かつ延長20m以上を標準とする。 なお、上中図のような箇所であっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述オープンカット工法が可能と判断される場合は（領域A）、オープンカットを適用する。
片 切	上右図及び上中図の領域Bのように、切取幅5.0m未満の場合とする。

2. 「床掘」の場合の適用歩掛で、施工基面より上方の施工は「バックホウ掘削（地山の掘削積込）」を、下方の施工は「バックホウ掘削（床掘）」を適用する。

ただし、施工基面より下方の施工であっても、線的に長い素掘工法等の場合で、かつ建設重機が床掘断面内に入り作業が可能となる場合は、当該現場の施工条件等を勘案し「バックホウ掘削（地山の掘削積込）」を適用することができる。

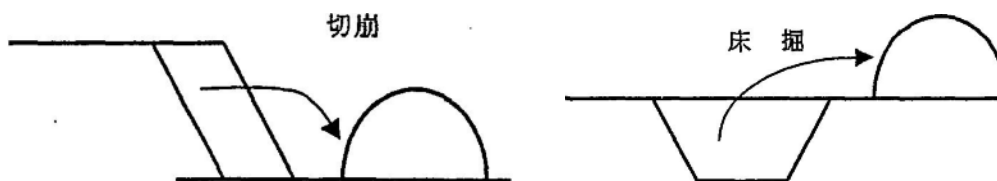
なお、建設重機が床掘断面内に入り作業が可能となる場合の目安は、機械の旋回等を考慮し5.0m以上とする。

3. 側溝類等の延長方向に均一な小構造物関係は、構造物の細別に床掘関係の費用を含める。
4. 「掘削」で水中掘削の場合の適用歩掛は、「バックホウ掘削」及び「クラムシェル掘削（水中の掘削積込）」が適用できる。

5. 本設の土水路は「掘削」とし、仮設の土水路は「床掘」とする。なお、適用歩掛は、本設・仮設とも「バックホウ掘削（床掘）」を適用する。
6. 「掘削」及び「床掘」において、機械による施工ができない場合は、人力による施工を考慮することができる。人力施工の場合の適用歩掛等は下表を標準とする。

数量区分	土質区分	適用歩掛	対応体系用語(細別)
掘削	土砂	人力切崩	土砂掘削
		人力床掘	
	岩	コンクリートブレーカ岩掘削	軟岩掘削・硬岩掘削
床掘	土砂	人力切崩	床掘
		人力床掘	
	岩	コンクリートブレーカ岩掘削	

注) 適用歩掛での「人工土工（切崩）」は、施工基面より上方を施工する場合で、「人工土工（床掘）」は、施工基面より下方を施工する場合とする。細別は下図による。

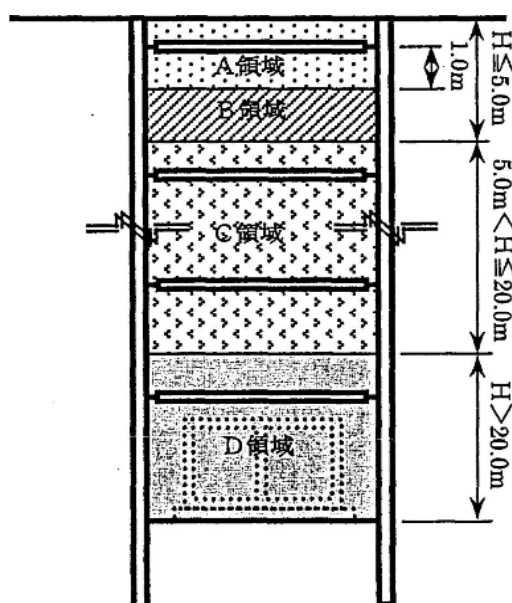


7. 切梁腹起こし方式土留め工の場合の床掘の取扱いは、次のとおりとする。

領域	適用歩掛	適用条件
A	バックホウ掘削	作業条件：障害なし 補助労務：自立式
B	バックホウ掘削	作業条件：障害あり 補助労務：切梁腹起方式
C	クラムシェル掘削	適用機種：テレスコピック式 作業条件：障害あり
D	クラムシェル掘削	適用機種：油圧ロープ式

注1 A領域とは、最上段切梁部材の中心線より1.0m以深部である。

注2 B領域において土留エの規模等によりバックホウが使用できない場合は、クラムシェル掘削（テレスコピック式）を適用できる。



d. 盛土・埋戻にかかる数量算出区分

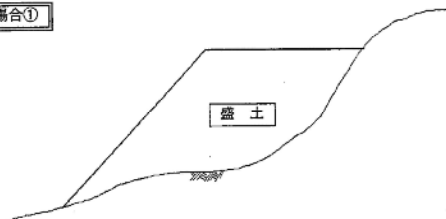
「盛土」とは、現況地盤線または計画埋戻線より上方に土砂等を盛立てる箇所である。
 また、「埋戻」とは、構造物の築造または撤去後、現況地盤線または計画埋戻線まで土砂等を埋戻す箇所である。

「埋戻」の構成費用は、以下のとおり。（「工事工種の体系用語定義集」より）

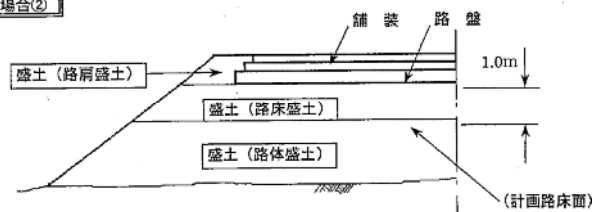
- ・埋戻材投入費
- ・敷均し・締固め費
- ・仮置場から流用する場合、仮置場での掘削、仮置場からの運搬を含む。仮置土は、特記仕様書で場所を明示する。
- ・購入土の場合、購入費、運搬費を含む。購入する予定土量は、特記仕様書で明示する。
- ・採取土の場合、土取場の場所及び採取予定数量は、特記仕様書で明示する。

具体的な算出区分の例は、次のとおりである。

盛土の場合①

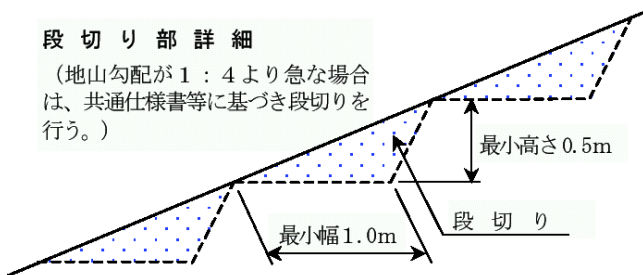


盛土の場合②



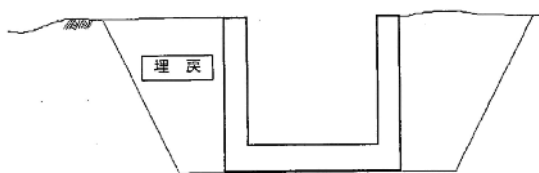
段切り部詳細

（地山勾配が1：4より急な場合は、共通仕様書等に基づき段切りを行う。）

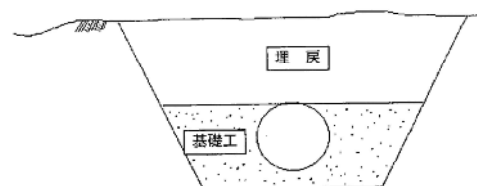


※ 滑動防止等のために指定又は任意によって行う段切りに係る、掘削、盛土に要する費用は準備費に含まれているため、段切りに係る数量を計上する必要はない。また、盛土材を購入する場合にあっても、段切り部の盛土に必要な材料を計上する必要はない。

埋戻の場合①

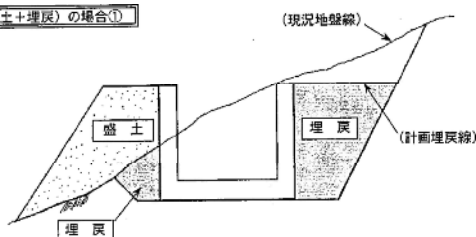


埋戻の場合②

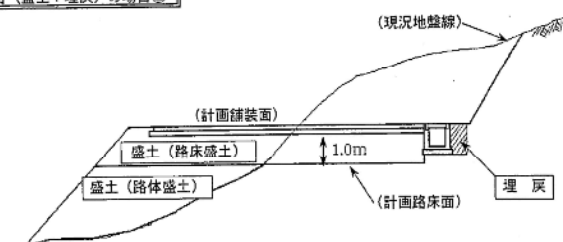


注) 畑地かんがい（パイプライン）には適用しない。

複合（盛土+埋戻）の場合①



複合（盛土+埋戻）の場合②



e. 盛土・埋戻の積算適用標準

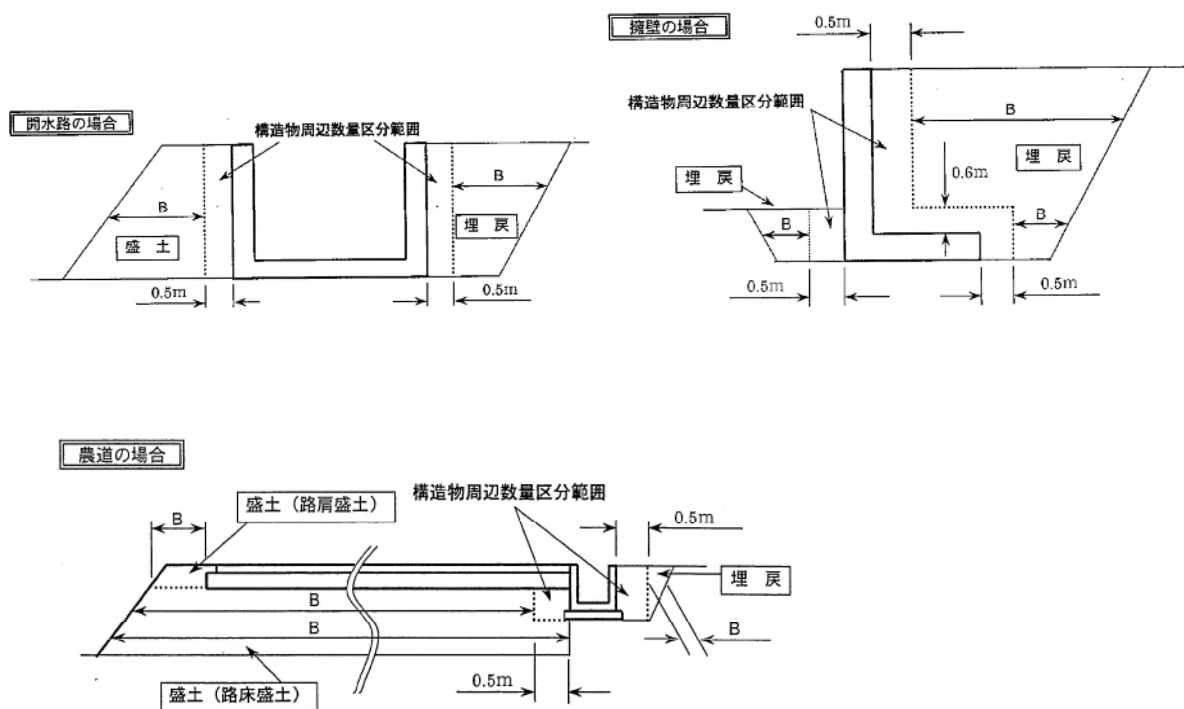
積算計上数量は、次表における区分及び施工幅毎に算出する。

区分	施工幅 (B)	適用歩掛		対応体系用語(細別)
		敷均し	締固め	
盛土 盛土(路床盛土) 盛土(路体盛土) 盛土(路肩盛土)	$B \geq 4.0\text{m}$	ブルドーザ敷均し・締固め	ブルドーザ敷均し・締固め	流用土盛土・路床・路体 購入土盛土・路床・路体 発生土盛土・路床・路体 採取土盛土・路床・路体
	$2.5\text{m} \leq B < 4.0\text{m}$	ブルドーザ敷均し(狭幅)	振動ロー締固め	
	$1.0\text{m} \leq B < 2.5\text{m}$	人力盛土・埋戻	振動ロー締固め	
	$B < 1.0\text{m}$	人力盛土・埋戻	振動ロー締固め	
	※構造物周辺(0.5m)	人力盛土・埋戻	人力盛土・埋戻	
埋戻	$B \geq 4.0\text{m}$	ブルドーザ敷均し・締固め	ブルドーザ敷均し・締固め	埋戻
	$2.5\text{m} \leq B < 4.0\text{m}$	ブルドーザ敷均し(狭幅)	振動ロー締固め	
	$1.0\text{m} \leq B < 2.5\text{m}$	人力盛土・埋戻	振動ロー締固め	
	$B < 1.0\text{m}$	人力盛土・埋戻	人力盛土・埋戻	
	※構造物周辺(0.5m)	人力盛土・埋戻	人力盛土・埋戻	

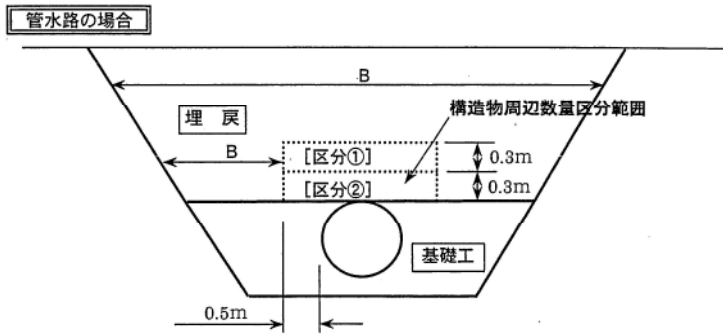
注：機種選定は『設計積算標準資料(工事編)〔農地〕』参照のこと

【摘要】

1. 構造物周辺の数量の算出は下図により区分し、適用歩掛は、敷均、締固めとも「盛土・埋戻」を適用する。



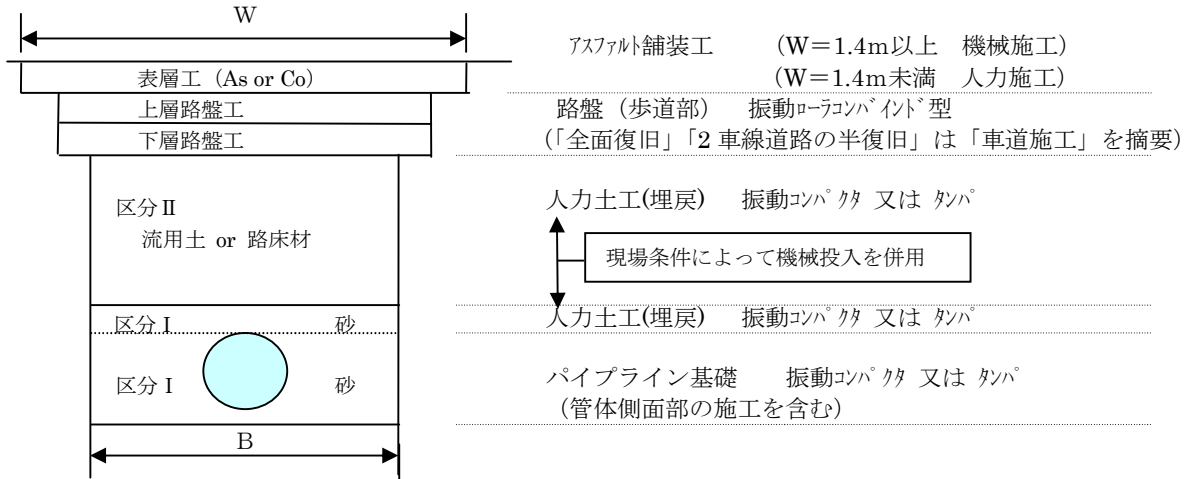
2. 舗装端部に各種側溝、境界ブロック及びアスファルトカーブを設置した側方に、路肩盛土を設置する場合は、構造物周辺数量区分範囲として取扱う。
3. 盛土(路肩盛土)の適用歩掛における締固め作業での締固め区分は「路体」を適用する。また、対応体系用語は「〇〇路体」として取扱う。



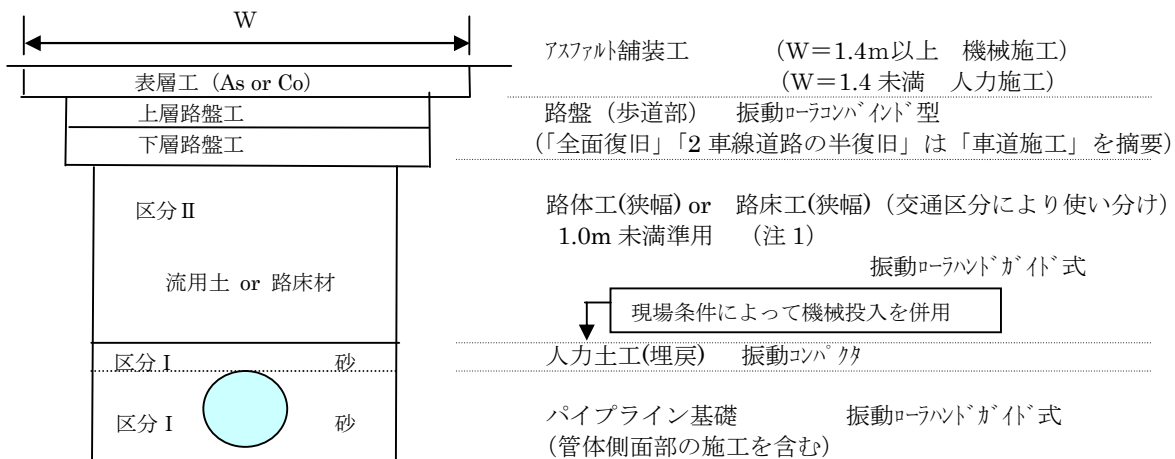
注) 畑地かんがい (パイプライン) には適用しない。

4. 管水路の場合の管頂0.3m~0.6m部 (図における [区分①]) は、「振動ローラ締固め (ハンドガイド式)」を適用する。
5. ボックスカルバートについては、管水路の場合と同様な取扱いとする。
6. 畑地かんがい (パイプライン) の埋戻しは、「畑地かんがい工事 (パイプライン) の埋戻し標準積算区分」(平成28年3月31日 農地整備室) による。(下図参照 ※一部編集)

底幅 B < 1.0m の場合



底幅 B ≥ 1.0m の場合



- (注1) 掘削幅Bが広い場合、且つ対象土量が500m³を超える場合等の路床(路体)の施工は、施工機械の実状に合わせて、搭乗式(振動ローラコンパインド等)を検討する。
- (注2) H27 設計積算標準(工事編)第3章第2節3-18埋戻工数量算定区分『②パイプライン工の場合』は、掘削断面が台形断面となる場合に適用するものとし、本積算運用指針では適用しない。

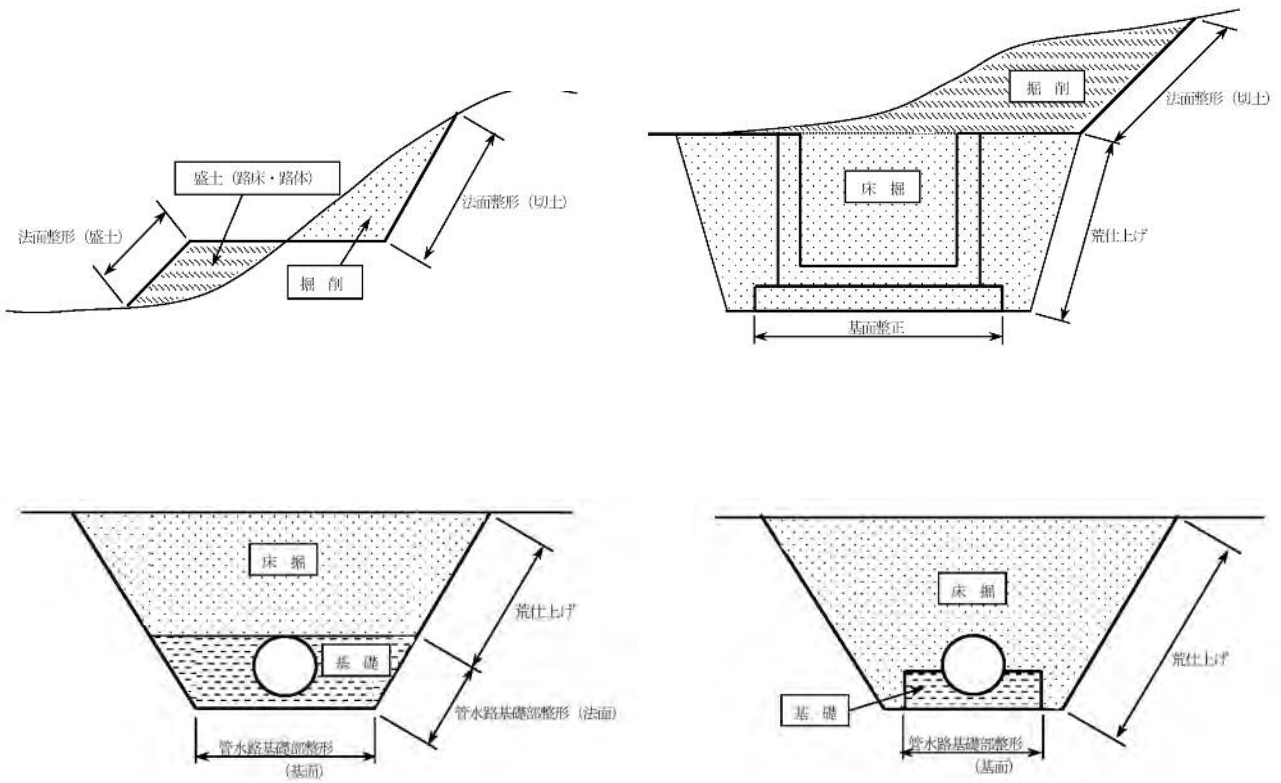
f. 整形工にかかる数量算出区分

整形工は、「法面整形」、「荒仕上げ」、「基面整正」及び「管水路基礎整形」に区分する。「法面整形」とは、掘削または盛土により造成された法面において、構造物の品質、円滑な施工性及び設計断面を確保する目的で行われる作業で、「切土」と「盛土」に区分する。

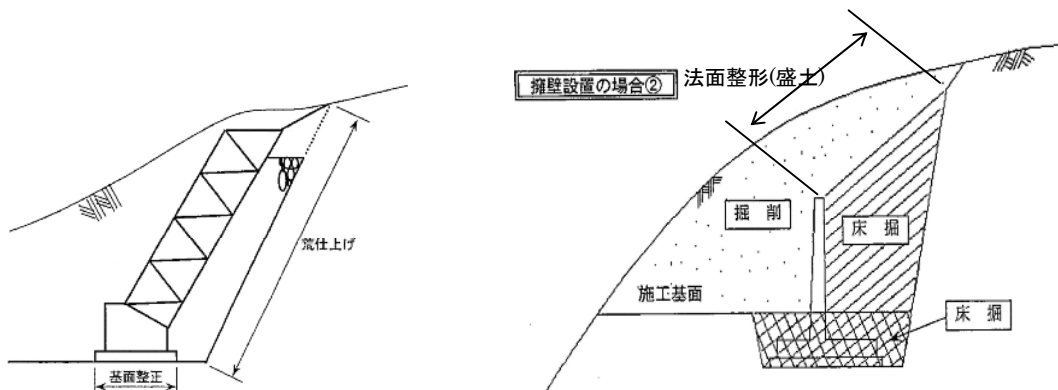
「荒仕上げ」とは、床掘により生じる法面において、工事期間中の雨水等による法面浸食や落石の発生を防止し、作業時における安全性を確保する目的で行われる作業である。

「基面整正」とは、床掘における床付面（構造物設置基面）を平滑に整形する作業である。「管水路基礎整形」とは、管水路における基礎の品質、円滑な施工性及び設計断面を確保する目的で行われる作業で、「基面」と「法面」に区分する。

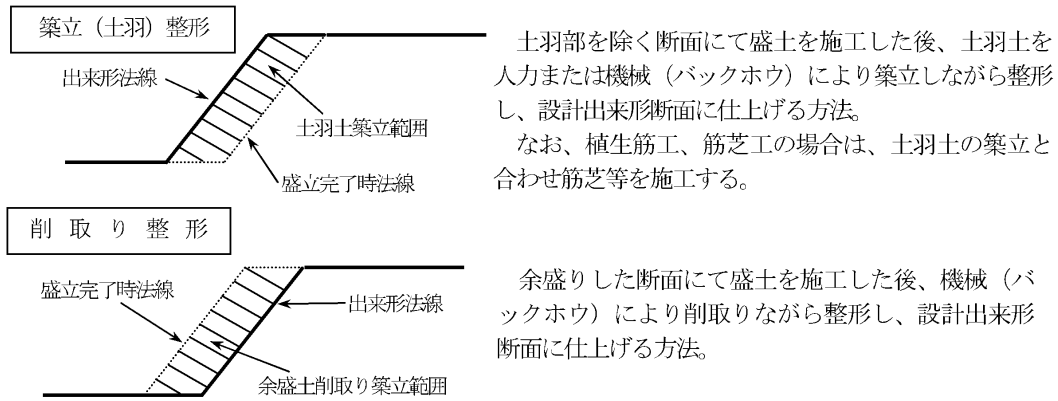
具体的な算出区分の例は、次のとおりである。



注) 畑地かんがい（パイプライン）には適用しない。



機械法面整形の概略図



g. 整形工の積算適用標準

土 砂		適用歩掛		対応体系用語(細別)
区 分	本体施工			
法面整形(切土)	機械掘削	機械法面整形	法面整形(掘削部)	
	人力掘削	人力法面整形		
法面整形(盛土)	機械盛土	機械法面整形	法面整形(盛土部)	
	人力盛土	人力法面整形		
荒仕上げ	機械掘削	人力荒仕上げ	-	
	人力掘削	-		
基面整正	機械掘削	基面整正	※荒仕上げ及び基面整正は、「床掘」の構成要素として計上する。	
	人力掘削	-		
管水路基礎部整形(基面)	機械掘削	基面整正	※管水路基礎部整形は、「砂基礎」「碎石基礎」「コンクリート基礎」でそれぞれ計上する。	
	人力掘削	-		
管水路基礎部整形(法面)	機械掘削	人力荒仕上げ		
	人力掘削	-		

【摘要】

- 「法面整形」において、切土法面内に設置する小段等の水平部面積は、法面整形面積に含めるが、盛土法面に設置する小段等の水平部面積は、整形面積に含めない。
- 「法面整形工」の築立整形、「人力法面仕上げ」の盛土法面仕上げ、若しくは、市場単価「植生筋工」または「筋芝工」を選定した場合の盛土の積算計上数量は、本体盛土量（出来形として受取る断面より算出した盛土量）より、土羽土相当量を控除する。
 なお、土羽土相当量は、[土羽土相当量＝築立整形計上面積×0.3m]として算出する。
- 「荒仕上げ」において、対象地盤が岩の場合の面積は、計上しない。
- 「荒仕上げ」は、素掘による床掘の場合で、現場状況等を勘案し必要な場合に計上する。
- 掘削法面にブロック積み擁壁または、もたれ式擁壁を設置する場合の掘削法面の整形は、「荒仕上げ」として取扱う。
- 「基面整正」は、床掘をショベル系掘削機械（バックホウ、クラムシェル）により施工した場合に計上し、床掘を人力により施工する場合は計上しない。
- 「管水路基礎整形」は、床掘を機械施工した場合に計上し、人力施工の場合は計上しない。
- 「管水路基礎整形」での法面部の整形は、現場状況等を勘案し必要な場合に計上する。
- 小規模土工の場合は、基面整正及び荒仕上げは別途計上しない。

<整形工にかかる土工歩掛の留意点>

- 「人力土工(床掘)」の歩掛は、基面整正を含む。
- 「機械土工(バックホウ掘削)」の作業区分「床掘(作業土工)」の歩掛は、基面整正を含まない。(別途計上)
- 「機械土工(小規模土工)」の作業内容「床掘」の歩掛は、基面整正及び浮石除去(＝荒仕上げ)を含む。
- 「人力土工(盛土・埋戻)」の歩掛は、法面仕上げを含まない。(別途計上)

(7) 仮設工の積算について

a. 仮設工の体系ツリー

仮設工は1つの「工事工種体系ツリー」として用意されているため、各工種区分に追加して計上するものとする。ただし、仮設工の計上は以下の点に留意すること。

b. 「指定仮設」と「任意仮設」の基本的な考え方

基本的な考え方は、『設計積算標準資料（工事編）[農地]』の「仮設について」及び「仮設、施工方法等の指定・任意の正しい運用について」によるが、一般的には資料-1「工事工種の体系ツリー」において「契約書表示単位」欄が“式”で表示された仮設を任意仮設、“数量単位”で表示された仮設を指定仮設とし、両方を併記したものは工事内容により判断して決定する。

c. 積算の考え方

・型枠や足場など、ある工種に固有なものや単独の工事目的物に付随して現れるものは、該当する工事目的物の単価構成要素の1つとして計上する。

一方、たとえば工事用道路工やコンクリート製造設備工のように、工事全体にかかわる仮設物については、全工種共通の仮設工（区分レベル）としてまとめて計上する。

また、共通仮設費における仮設費は、工事の種類の違いにより実施する項目にそれほどの違いがなく、また、ほとんどの工事に共通的に表れる項目も多いため、基本的に全工事共通とし、積上げ項目について標準的な項目を体系化している。

・受注者の任意性を阻害することのないように、契約用設計書の単位を次のとおりとする。

任意仮設（型枠や足場の面積）の場合など仮設物の数量を明記することが受注者の任意性を阻害するおそれがあるものの契約単位に関しては、基本的には“式”という単位を用いる。

一方、指定仮設の場合など数量明示が必要となる場合には、“m²”や“掛m²”などの数量明示用の単位を用いる。

***注意** 設計積算システム SMILES では対応できないので、任意仮設等監理する必要のない旨を設計書内訳書や特別仕様書等に明示すること。

(参考) 工事目的物(ここでは現場打擁壁工)の構成要素として体系化した仮設物の例

種 別	細 別	積算単位	契約単位
現場打擁壁工	基礎材		
	— 均しコンクリート	m ³	m ³
	— コンクリート	m ³	m ³
	— 鉄筋	t	t
	— 型 枠	m ²	式
	— 足 場	掛 m ²	式
	— 目地材	m ²	m ²
	— 止水板	m	m
	— 水抜パイプ	箇所	箇所
— 吸出し防水材	m ²	m ²	

※ 任意仮設は、契約単位を「式」で計上する。

d. 仮設工の積算適用標準

① 各資材の設置期間別1現場当たり損耗率

仮設名	仮設材名	設置期間別1現場当たり損耗費 (%)						摘 要
		1ヶ月 未満	3ヶ月 未満	6ヶ月 未満	1年 未満	2年 未満	3年 未満	
土留 仮締切 仮橋 足場 支保 防護柵	木 材	15	25	40	50	75	100	A条件
	”	50	65	80	100	100	100	B条件
	鋼 材	10	10	20	30	50	70	
給排水 仮廻し 水路等	合成樹脂管 ホース	30	45	55	65	75	85	
	鋼管 ガス管	10	10	20	30	—	—	
	鋼製コルゲート パイプ	50	50	50	50	65	80	
	コンクリート管	50						
保安施設等	シート	30						
	ロープ	20						

備考 1. 摘要欄のA条件、B条件の判定は次による。

A条件：足場、支保、防護柵（岩砕の飛散を受けない）等、通常の条件で使用する場合。

B条件：土留、仮締切、仮橋、防護柵（岩砕の飛散を受ける）等、過酷な条件で使用する場合。

2. 木材で再使用不可能な場合、又は長さ2m未満の木材を使用する場合は全損扱いでよい。
3. 土留等の仮設におけるボルト、カスガイ、釘、鉄線等は全損扱いでよい。
4. タイロッドは1工事全損としスクラップ控除する。
5. 合成樹脂管・ホースは、塩化ビニル管・塩化ビニル管・高密度ポリエチレン管を対象とする。
6. 上表は仮設材経費算定基準に示す資材以外に適用する。

② 仮設材の設置及び撤去歩掛の取り扱い

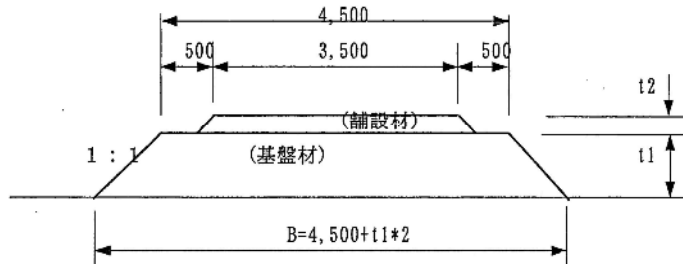
設置：関連する標準歩掛による。

撤去：関連する標準歩掛による。

なお、標準歩掛等によらないもので、再利用を目的としたものは、設置歩掛の50%とする。再利用を目的としない場合は、別途検討する。

③ 工事用道路標準断面

下図は、あくまで標準的な断面を示しているため、施工計画等により各現場において、断面等を決定するものとする。



基盤厚及び舗設材の厚さの標準

区分	厚さ	選定条件	備考
基盤材	0.30m～0.60m	以下を参考に、現場条件により決定する。 基盤厚さ コーン支持力 60cm 100～350kpa 50cm 360～550kpa 40cm 560～750kpa 30cm 760～950kpa	
舗設材	標準	0.10m	

(注1) 耕地等で現場条件により舗設材（碎石等）の使用が困難な場合や、軟弱地盤等で敷き鉄板等の使用が必要な場合等は別途検討する。

(注2) 現場条件等により土木シート等の敷設が必要な場合は、 $B+(0.5m \times 2)$ で計上するものとする。

通行台数

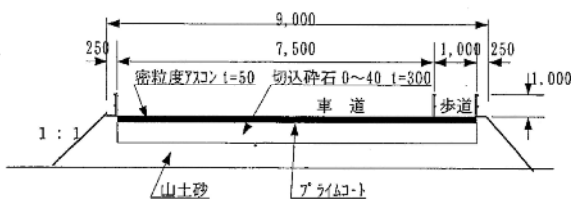
通行台数は、対象となる路線を通行する重車両（ダンプトラック10t積級相当以上）の通行回数であり、次により区分する。

区分	補足材料の設計数量
100台以下	75m ³ /km
100台超え500台以下	105m ³ /km
500台超え2,500台以下	140m ³ /km

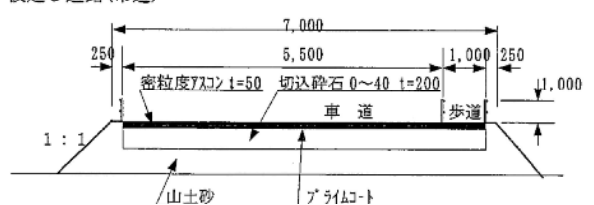
④ 仮廻し道路標準断面

下図は、あくまで標準的な断面を示しているため、道路管理者等の第三者との協議等に基づき、断面・舗装構成・防護柵の有無等を検討するものとする。

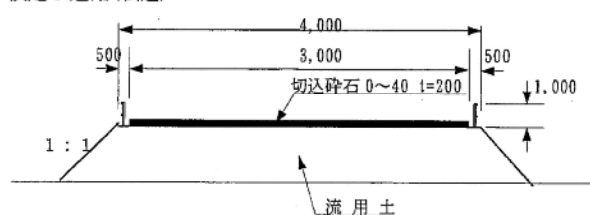
仮廻し道路(県道)



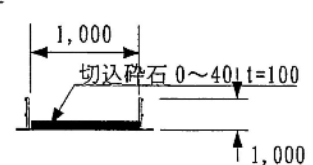
仮廻し道路(市道)



仮廻し道路(私道)



仮廻し歩道

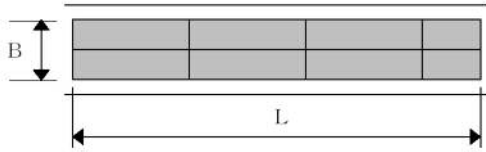


⑤ 仮設材（鋼矢板、H形鋼、敷鋼板等）の数量計上例

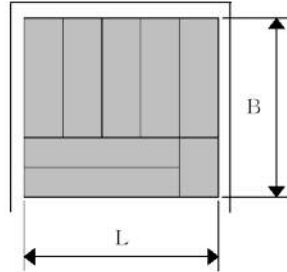
大型仮設材については、現場条件、工程等から経済的な施工計画を十分検討し、仮設材の数量算定を行うものとする。

敷鋼板計上面積は次式により算出する。 面積（A）＝B×L

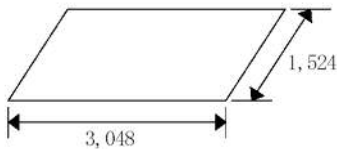
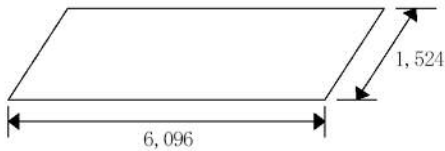
〔仮設道路の場合〕



〔仮設ヤードの場合〕



敷鋼板の規格は次図を参考とする。

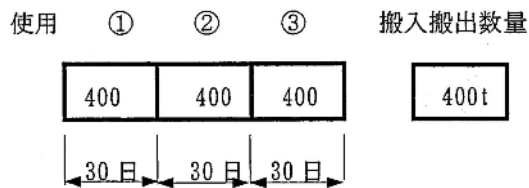


※敷鋼板規格を示しているが、数量算出時、規格別に算出する必要はない。

流用を行う場合の数量算定例を次に示す。

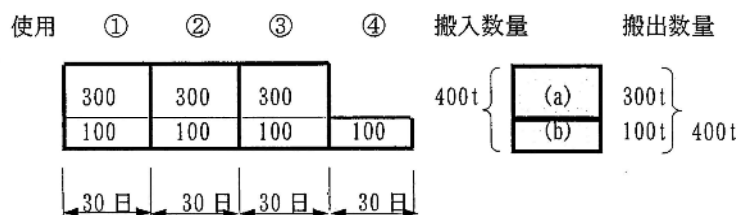
例 1 1,200m²の施工に当たり、400m²を3回施工する場合

- ・ 計上数量 1,200m²
- ・ 供用日数 90日
- ・ 使用回数 3回



例 2 1,300m²の施工に当たり、最後の転用に端数ができる場合

- ・ 計上数量 (a) 900m²、 (b) 400m²
- ・ 供用日数 (a) 90日、 (b) 120日
- ・ 使用回数 (a) 3回、 (b) 4回



⑥ 排水量の算定について（参考）

排水量の算定は、実績、水理公式等により算定する方法の他に、次式を参考に示す。

$$Qa = q1 + q2 + q3 + q4$$

Qa：時間当たり排水量（m³/時間）

q1：土堤または土俵工法の透水量（m³/時間）

q2：水中矢板工法の透水量（m³/時間）

q3：地中矢板工法の透水量（m³/時間）

q4：裏側からの湧水量（m³/時間）

1) 土堤または土俵工法の透水量：q1（m³/時間）

土堤または土俵による水中締切の場合の時間当たり透水量は次式により算出する。

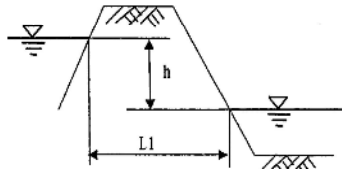
$$q1 = \frac{N1 \times h^2 \times L2}{2 \times L1}$$

L1：平均透水長（m）

h：水位差（外水位は、排水期間中の平均水位、内水位は設計時の最下端時水位）（m）

L2：締切延長（目的物の堤防などの部分は除く）（m）

N1：透水係数（m/時間）



※ 透水係数は土質により次表を標準とする。

土質	シルト	微細砂	細砂	中砂	粗砂	レキ
土の有効径 (mm)	0.05以下	0.05～0.1	0.1～0.25	0.25～0.5	0.5～1.0	1.0～5.0
N1	0.4×10^{-1}	0.7×10^{-1}	4.0	1.7×10	7.0×10	1.4×10^3

選定条件

- 土の有効径（土の有効径は掘削最下端部分の粒径加積曲線の10%に相当する粒径を言う）とN1との関係は次式のとおりである。

$$N1 = 96 \times d^2 \times c$$

d：土の有効径（mm）

c：漏水係数=1.16

- N1は土の有効径による透水係数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。
- N1は締切土の空隙、排水による土粒子の移動などの現場の状況により20%の範囲内で増減することができる。

2) 水中矢板工法の透水量： q_2 (m³/時間)

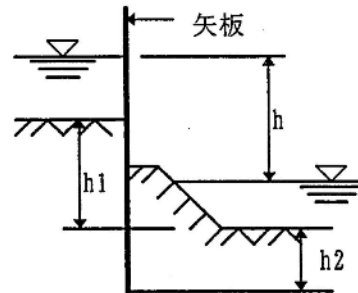
鋼矢板、トレンチシートによる水中締切の場合の透水量は次式により算出する。

$$q_2 = N_2 \times h \times L_3$$

h : 水位差 (m)

L_3 : 締切延長 (m)

N_2 : 透水係数 (m/時間)



透水係数は土質及び矢板の根入れ深さにより次表を標準とする。

土質	シルト	微細砂	細砂	中砂	粗砂	レキ
土の有効径 (mm)	0.05以下	0.05~0.1	0.1~0.25	0.25~0.5	0.5~1.0	1.0~5.0
根入れ 深さ (h_1+h_2) (m)	4以下	2.3×10^{-3}	1.1×10^{-2}	6.3×10^{-2}	2.7×10^{-1}	1.1
	7以下	5.8×10^{-4}	2.6×10^{-3}	1.5×10^{-2}	6.5×10^{-2}	2.6×10^{-1}
	10以下	2.3×10^{-4}	1.0×10^{-3}	6.0×10^{-3}	2.6×10^{-2}	1.0×10^{-1}
	13以下	1.2×10^{-4}	5.3×10^{-3}	3.1×10^{-3}	1.3×10^{-2}	5.3×10^{-2}

選定条件

- 土の有効径と N_2 との関係は次式のとおりである。

$$N_2 = 52 / X^{2.56} \times d^2 \times c$$

d : 土の有効径 (mm)

X : 根入れ深さ (h_1+h_2) (m)

c : 漏水係数=1.16

- N_2 は土の有効径による透水係数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。
- N_2 は空隙率、土粒子の移動など現場の状況により20%の範囲内で増減することができる。
- 土俵又は土堤と、矢板との水中締切の場合を含んでいる。
- 矢板施工において玉石などが多い場合の付合せ不完全による漏水を含んでいる。

3) 地中矢板工法の透水量： q_3 (m³/時間)

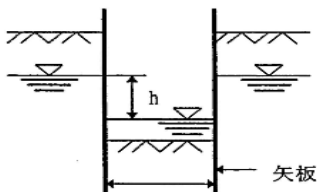
$$q_3 = 4 \times K \times r_0 \times h$$

r_0 : 床掘半径 = $\frac{\Sigma L}{2\pi}$ (m)

ΣL : 床掘周長 (m)

h : 水位差 (m)

K : 透水係数 (m/時間)



※ 透水係数は土質により次表を標準とする。

土質	シルト	微細砂	細砂	中砂	粗砂	礫
土の有効径 (mm)	0.05以下	0.05~0.1	0.1~0.25	0.25~0.5	0.5~1.0	1.0~5.0
K	1.6×10^{-2}	7.9×10^{-2}	4.6×10^{-1}	2.0	7.9	1.6×10

選定条件

- 土の有効径とKとの関係は次式のとおりである。

$$K=12.6d^2$$
ただし、d：土の有効径 (m)
- Kは土の有効径による透水係数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。
- Kは矢板の施工状況、土粒子の移動などの現場の状況により20%の範囲内で増減することができる。
- 土堤または土俵の中に矢板工のある場合の透水量は本算定式により算出する。

4) 裏側からの湧水量：q4 (m³/時間)

土堤または土俵の締切工法において、裏面の堤防などからの湧水量は次式により算定する。

$$q4=N3 \times h \times L$$

h：水位差 (q1、q2の算定に用いたh) (m)

L：目的物の堤防などの延長 (m)

N3：透水係数 (m/時間)

※ 透水係数は土質により次表を標準とする。

土質	シルト	微細砂	細砂	中砂	粗砂	礫
土の有効径 (mm)	0.05以下	0.05~0.1	0.1~0.25	0.25~0.5	0.5~1.0	1.0~5.0
N3	3.3×10^{-3}	1.7×10^{-2}	9.8×10^{-2}	4.2×10^{-1}	1.7	3.3×10

選定条件

- 土の有効径とN3との関係は次式のとおりである。

$$N3=2.68d^2$$
ただし、d：土の有効径 (mm)
- N3は土の有効径による透水係数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。
- 次の現場状況が予測される場合は20%の範囲内で増すことができる。
 - ① 伏流水により通水の危険性がある場合。
 - ② 土質により流水にて水道ができると思われる場合。
 - ③ その他。

(備考)

- 本書の仮設工の積算適用標準は、農水省「土地改良工事標準積算マニュアル(案)H27年度版」を引用した。
- 水替工の積算資料として「水替工指針」(H6.8編集：農地技術研究会)があるが、記載内容に現行の設計積算の基準類と一致しない箇所があるため、参照する場合は注意が必要である。
 なお、「水替工指針」の排水量の算出方法は、本書と基本的に同じである。

(8) 構造物の計上方法

種別レベルで構造物を区別する。

⇨ 構造物の施工箇所が点在する場合、その施工箇所ごとに計上する。

- a. 作業土工（床掘、埋戻）は、構造物（施工箇所）ごとに計上することを標準とする。
- b. 側溝類等の延長方向に均一な構造物は、構造物の細別に作業土工（床掘・埋戻）を含めて計上する。

・延長方向に均一な構造物基礎等には基面整正を含めて計上できるが、施工単価「バックホウ機械（小規模）」（作業内容「床掘」のとき）及び「人力床掘」は、歩掛に基面整正を含むので二重計上しないように注意する。

<例> 工種 農道工事

工 種	種 別	細 別
ブロック積工	コンクリートブロック工 [第3号]	床掘
		埋戻
		コンクリートブロック基礎
		コンクリートブロック積
		裏込材
	天端コンクリート	
	コンクリートブロック工 [第4号]	床掘
		埋戻
		コンクリートブロック基礎
		コンクリートブロック積
裏込材		
天端コンクリート		

(9) 複数の工区、路線等がある場合の計上方法

ほ場整備等、工区単位で工事費を分ける必要がある場合は、工種レベルで分類する。
必要に応じてコメント行や規格欄に工区名等を記入する。

<例> 工種 ほ場整備工事

区 分	工 種	規 格
直接工事費	整地工	[1工区]
	用水路工	[1工区]
	排水路工	[1工区]
	整地工	[2工区]
	用水路工	[2工区]
	排水路工	[2工区]

(10) 既設構造物の撤去・運搬・処理費の計上方法

各工種の体系ツリー（資料-1）による。基本的に作業残土処理工と同様に工事全体で一括して種別「構造物取壊し工」の系統に計上する。

6) その他

(1) 「工事数量表」

畑かん工事の「継手類」等、部品の種類が多いものは、明細書の細別（＝明細ブロック）の数量を「1式」で計上できる。

但し、「1式」で計上した内容は、次のいずれかの方法により契約用設計書において明示しなければならない。この場合、数量表添付か図面表示かを明細書の備考等に記載する。

イ. 数量表を作成して契約用設計書に添付する。（特記仕様書に含めてもよい。）

（その1）

下表を参考に、「1式」計上した部分の「工事数量表」を作成して添付する。

工 事 数 量 表				
工 種	規 格	単 位	数 量	備 考
・・・塩ビ管継手類	塩ビVP100mm用	式	1.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	ソケット A形 径100	個	14.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	径違ソケットA形 100×75	個	20.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	エルボ A形 径100	個	14.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	90° ベンド B形 径100	個	20.000	
・・・塩ビ管継手類	塩ビVP200mm用	式	1.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	90° ベンド B形 径200	個	12.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	22 1/2° ベンドB形 径200	個	16.000	
硬質塩化ビニル管T S継手	5 5/8° ベンドB形 径200	個	33.000	

（その2）

委託成果等、既存資料の数量表を流用する。

（その3）

明細ブロック表の該当部分を利用する。この場合、余分な記載は必ず消去すること。

ロ. 設計図面に「1式」で計上した部品類の数量表を表示する。

第2章 設計図の作成

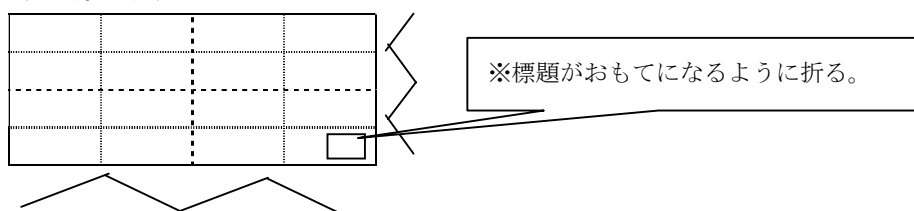
設計図の作成は、『設計積算標準資料（工事編）[農地] 第2章 第3節 設計図作成要領』によるほか、以下を参考とする。

1 図面の作成および着色の留意事項

1) 共通事項

- (1) 図面の順序は、次ページの表を標準とする。
- (2) 図面の番号は、分数形であらわし、分母は総数、分子は図面の番号とする。
- (3) 実施設計書用及び契約書用には契約区分（「当初」、「〇回変更」）、出来型設計書用には「出来型」を標題の下（欄外）に表示する。（通常、スタンプ使用）
- (4) 図面には必ず図面目録を添付する。（図面袋に貼ることを標準とする。）
 - ・ 図面目録には、工事名、図面番号、図面名称、枚数を記載する。
 - ・ 変更時は、工事名の次に（第〇回変更）と記入する。
- (5) 契約条件になる表示と参考表示を明確に区別する。
 - ・ 図面の一部に参考表示がある場合は、参考表示について但し書きをする。
例：（ ）内は参考値である。
 - ・ 参考として添付する図面には、図面名称に“（参考図）”を記載する。
- (6) 図面の中に当該工事に関係しない構造物等の記載がある場合、次のいずれかの方法で当該工事で施工する構造物等と明確に区別する。
 - イ. 当該工事の構造物等の図、標題、旗上げ等を着色（赤）する。
 - ロ. 当該工事に関係ない構造物等の図、標題等に×印や取り消し線を記すか、削除する。
 - ハ. 標準構造物など構造物や規格欄が選択形式となっている場合は、該当に〇印をつける。
- (7) 図面の折りたたみの大きさは、幅 148mm、長さ 210mm を標準とする。（A版）
なお、既に農林規格等で納品されている図面は、従来の大きさでよい。

（A-1 版の例）



- (8) 縦覧用設計書及び契約用設計書の図面も、当該工事の内容を明らかにするために図面着色を行う。

<備考>

実施設計書・縦覧用設計書の図面と契約用設計書の図面との目的の違いに留意する。

実施設計書及び縦覧用設計書の図面は、設計書の審査や業者見積りに必要な事項（たとえば想定床掘線、任意仮設等）を記載し、工事の内容をできるだけ具体的に図示することを目的とする。

一方、契約用設計書の図面は、本来、契約事項を図示することが目的で、それ以外は記載しないのが原則である。但し、工事の施工上、参考となる事項を「参考」表示であることを明記したうえで記載することは差し支えない。

2) 個別の留意事項

※図面の記述内容の詳細は、『設計積算標準資料(工事編)[農地]第2章第3節 設計図作成要領』を参照する。

図面名称	留意事項	
1. 一般平面図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・原図に工事区間を旗上げし、工事名及び代表工種・数量を記載して着色(赤)する。 ・工事領域を着色(赤)する。
2. 平面図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・原図に工事区間を旗上げし、工事名及び代表工種・数量を記載して着色(赤)する。 ・工事領域を着色(赤)する。 ・本工事で施工する構造物の旗上げを着色(赤)する。但し、工事区間の構造物がすべて施工対象である場合は省略してもよい。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・指定仮設の記載がある場合、仮設名称の前に(指)を記載する。
3. 縦断面図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・原図に工事区間を旗上げし、工事名及び代表工種・数量を記載して着色する。(赤色) ・「測点」欄の工事区間を着色(赤)する。複数葉のときは、各葉の起終点の部分着色する。 ・標準断面図がある場合は、施工部分を着色(赤)する。
4. 標準断面図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・当該工事で施工する部分を着色(赤)する。 但し、すべてが施工対象である場合は、着色を省略してよい。
5. 横断面図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・原図に工事区間を旗上げし、工事名(略称)を起終点部に記載して着色(赤)する。 ※工事名(略称)の例:「16-2 工事」 ・工事区間の起終点断面と各葉の起終点断面について、施工する部分を着色(赤)する。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・添付図の1枚目には、必ず土工区分の凡例を記載する。
6. 構造図及び詳細図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・図面に当該工事に関係ない構造図がある場合、着色(赤)等により当該工事で施工する構造図と明確に区別する。 区別の方法は、前述1)(6)による。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・二次製品の詳細図について、以下に留意する。 1) 製品指定をしない場合は、参考資料として添付し、必要とする規格・性能について「○○同等以上とする」等を明示する。 2) 寸法を指定しない部位の数値は、()書きとして、その旨を但し書きする。
7. 土工定規図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・当該工事で施工する部分を着色する。 但し、すべてが施工対象である場合は、着色を省略してよい。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・工事工種の体系用語の定義に基づく用語及び数量算出区分を適用するほか、施工区分(適用歩掛による区分)を考慮する。 特に掘削、床掘、構造物周辺数量区分に注意する。
8. 仮設関係図	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・指定仮設であるか、任意仮設であるかを明確に区別する。 ・任意仮設の図面は、参考図であることを明示のうえ添付する。
9. 【用地境界図】	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・境界杭を設置する場合は、杭位置を着色(赤)する。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・座標が記載されている用地平面図を使用する。 ・境界杭を設置する場合は、杭位置に○印と杭番号を記載する。
10. 【公図写】	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて工事区域を着色(赤)する。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・工事実施にあたり請負業者が関係する用地の範囲、地権者を把握する必要がある場合に「参考図」として添付する。 (関係地権者の住所、連絡先も判るとよい。)
11. 位置図	着色	<ul style="list-style-type: none"> ・工事現場、土取場、残土受入地、産廃処理施設等の位置を赤丸等で図示する。
	記述	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計書用には、運搬経路、運搬距離、DID区間等を表示する。 ・A4版で作成し、設計書(特記仕様書等)に添付してもよい。

* 【用地境界図】、【公図写】等の個人情報を含む資料は、縦覧用・契約用には原則として添付しない。

第3章 積算資料

本書における「積算資料」とは、設計書の数量、歩掛、単価等の積算根拠となる資料を総称したものをいう。作成の留意事項を以下に述べる。

1) 共通事項

(1) 設計書を審査しやすくするため、できるだけ資料を統一化する目的で「第7章 積算資料の様式・作成例」に様式及び作成例を示したので、これらを参考とする。

本書で示した様式及び作成例は、SDOの「農林土木DB」に電子ファイル（Ms-Excelファイル）を添付ファイルとして掲載し提供する。

(2) 数量計算の単位及び数値は、資料-3「積算に用いる単位、数値」による。

(3) 積算根拠（単価の出所、数量計算式）は、設計書の備考欄ではなく積算資料に記載することを基本とする。

・設計書の備考欄は、主として名称（規格）の記載を補足するのに利用する。

（たとえば、工事目的物の施工箇所、数量、寸法、形状、仮設区分など）

(4) 積算資料にはページ番号を付ける。また、参照先のページや図面番号を明記するなど他者が分かり易くする。（例 別紙「土工計算書」p5による等）

(5) 数量計算書の作成を業務委託する場合、特記仕様書において作成方法に関し、以下を指示する。

・資料-1「工事工種の体系化ツリー」による工事数量の算出区分を適用するほか施工区分（適用歩掛による区分）を考慮すること。

・資料-2「工事工種の体系用語」を使用すること。

・数量の単位及び数値は、資料-3によること。

・数量計算書の様式は、本書の様式に準拠するものとし、業務成果品として電子データを納品すること。（ファイル形式をMs-Excelまたはwordで指定する。）

(6) 数量計算を行う場合、次の事項について特に注意する。

・数量計算が終了した段階において、工事工種の体系化で定められている細別レベル欄と突き合せ、単位違い、漏れがないことを確認する。

・左右対称の数量を片側で計算した場合、2倍の数量にしているか。また、標準断面や個当りで数量を計算した場合、延長や必要個数を乗じているか。

・スケールアップ及びプランメータ使用の場合に縮尺は誤っていないか。

・控除すべき部分は差し引かれているか。

・数量計算書が設計図、仕様書等の内容を正確に反映しているか。（数量や規格が一致しているか。）

2) 個別事項

様式一覧及び作成の留意事項

※第7章に様式及び作成例を掲載

資料名称	留意事項
1. 工事概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体の進捗状況、本工事の位置付け及び工事実施にかかる特記事項（関連工事、協議事項等）を説明するために作成する。 ・事業進捗状況等の説明には、予算要求資料（概要表、概要図）や県営工事(状況)報告表等を利用する。 (作成例①)
2. 工事数量総括表	<ul style="list-style-type: none"> ・様式①を標準とする。 ・工事数量総括表を作成するにあたっては、各工種の体系別（資料-1）を参照する。 ・計上数量の単位と数位は、資料-3による。 ・仮設工は、「指定」or「任意」の区分を備考に書く。
3. 単価表（数量計算書）	<ul style="list-style-type: none"> ・様式②を標準とする。 ・M明細、T単価の作成に使用する。 ・計上数量の単位と数位は、資料-3による。 ・計算に使用する資材の単位質量等は、資料-3を参考にする。 ・単価の作成にあたっては、施工の順序を考慮する。 ・農地の標準歩掛以外の歩掛を適用した場合、根拠（参考資料名等）を明示する。 ・資材単価は、出所の資料名、ページ等を明示する。 但し、県建設資材等価格表を使用の場合は、選定条件として金額を入力する場合を除き、省略してよい。
4. 立・平積計算書 （土工数量計算書）	<ul style="list-style-type: none"> ・土工の数量算出区分は、工事工種の体系化による区分を適用するほか、施工区分（適用歩掛による区分）を考慮する。 ・作業土工（床掘、埋戻）数量及び構造物周辺数量は、形状が複雑なものを除き、数学公式等により計算で求めることを基本とする。 ・CADによる場合は、適宜結果を確認したうえで適用できるものとする。 ・総括表または単価表に計上する数値がどれか、マキグするなどして明示する。 (作成例②、③)
5. 土工計画図	<ul style="list-style-type: none"> ・土工計画の考え方を説明するために作成するもので、土の流用、搬出入等が単純な場合は、省略してよい。 (作成例④、⑤)
6. ブロック積数量計算書	<ul style="list-style-type: none"> ・数量計算書は、施工箇所ごとに区分して作成する。 ・総括表または単価表に計上する数値がどれか、マキグするなどして明示する。 (作成例⑥、⑦)
7. 数量計算書（その他）	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の施工延長等の集計は、様式③を標準とする。 ・その他数量の集計に関しては、今後、工種ごとの標準化を検討するが当面は、他工事の作成例等を参考に作成する。 ・総括表または単価表に計上する数値がどれであるか、マキグするなどして明示する。 (作成例⑧～⑩)
8. 単価・歩掛算定資料	<ul style="list-style-type: none"> ・査定している場合は、査定方法（計算式）を明示する。 ・出所の資料名、ページ等を記入する。 (作成例⑪～⑬)
9. 単価・歩掛根拠資料 （見積書、資料コピー等）	<ul style="list-style-type: none"> ・該当箇所にマキグする。 ・出所の資料名、ページ等を記入する。
10. 工法決定資料	<ul style="list-style-type: none"> ・重要構造物の工法決定の根拠資料（比較検討表等） ・設計業務成果品のコピーなどを利用する。
11. 工期算定資料	<ul style="list-style-type: none"> ・工期算定は、工程表を作成するか、類似工事の実績を参考に適正に算定する。 (作成例⑭、⑮) ・月間消化額による算定を作成例⑯に示すが安易に頼らない。
12. 関連資料一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・積算資料に添付していない関連資料（特に当該工事で施工する重要構造物の設計、構造計算等に関する根拠資料）について、資料名、参照箇所、資料の保管場所等を記載する。 (作成例⑰)

第4章 設計図書の作成部数等について

設計図書作成にかかる事業担当者の作業は、以下のとおりである。

1 実施設計書（当初・変更）

作業内容	備考
・書類、図面（着色あり）を1部作成する。	・必要に応じて担当控えを作成

2 縦覧用設計書

作業内容	備考
・書類（原稿）、図面（着色あり）を1部作成し、契約担当へ提出する。 ・縦覧用設計書を照合し、契約担当者へ提出する。 ・必要に応じて、図面の原図1式を契約担当へ提出する。	・PPIへの登録は、別途定めにより対応する

3 契約用設計書（当初）

作業内容	備考
・書類、図面（着色あり）を2部作成し、契約担当へ提出する。 ・契約図書（甲、乙）を照合し、契約担当へ提出する。	

4 契約用設計書（変更）

作業内容	備考
・書類、図面（着色あり）を2部作成し、契約担当へ提出する。 ・契約図書（甲、乙）を照合し契約担当へ提出する。	

5 出来型設計書

業務内容	備考
・永年保存用として書類、図面（着色あり）を1部作成する。 ・市町村、改良区への譲与用の作成は、協議のうえ決定する。	・譲与先が提出不要とした場合は、その旨を記載した協議文書を残すこと
・会計検査受検用として1部作成する。	・実績報告書の添付不要 ・表紙等の装丁は簡単に する

第5章 設計・積算根拠資料の管理等について

会計実地検査や監査の準備及び受検時に、工事の設計・積算の根拠とした資料の所在が不明であることが少なくない。特に担当者が変わった場合に多く、管理を担当者個人に委ねていることが一因となっていると考えられる。このため、会計実地検査時に必要となる設計・積算根拠資料は、次のとおり取扱う。

- 1 工事の設計・積算根拠とした資料は、できるだけ実施設計書に「積算資料」として添付するものとする。
- 2 添付していない資料は、工事毎にファイルを作成して、契約書綴りまたは出来型設計書と共に文書保存箱に保管する。（契約書綴りとするか出来型設計書とするかは、各事務所で決める。）
 - (1) ファイルは、紙媒体を基本とし、資料目録（一覧表）を添付する。
電子媒体で作成した場合にも出力したものを保管する。
 - (2) 設計報告書などで該当する部分のページ数が多いもの、また他の工事でも使用する資料などはファイルに含めなくてもよい。ただし、それらの資料は、前述の「第3章 積算資料」の「関連資料一覧表」に記載するものとして、資料名、参照したページ、資料の保管場所を明らかにしておく。
 - (3) ファイルの保存期限は、契約書関係に準じる。（5年保存）
 - (4) 整理が不十分なデータであっても、バックデータとして使用したものはファイルに収めて引継ぐようにする。

第6章 資料集

資料－1 工事工種の体系ツリー

資料－2 工事工種の体系用語

資料－3 積算に用いる単位、数位等

資料－4 積算のチェック（審査）にかかる留意点（会計検査院研修資料より）

資料－1 工事工種の体系ツリー（土木工事）

「工事工種の体系化」の目的と効果

「工事工種の体系化」とは、積算書の階層数や階層定義、細分化方法などの構成方法並びに積算書の用語名称や数量単位などの表示方法を各工事工種ごとに標準化・規格化するもので、これにより契約内容の明確化を図り、併せて、積算業務の合理化を図るものである。なお、工事工種の体系化による具体的効果を以下に示す。

◆ 工事目的物の明確化

- ・ 表示方法を標準化することにより、名称・構造内容等の統一化が図られ、工事目的物の明確化につながる。

◆ 契約内容の透明性・客観性

- ・ 積算内訳を標準化することにより、積算内訳・契約内容の透明性、客観性の確保につながる。
- ・ 標準化により発注者、受注者の契約内容に対する共通認識の醸成につながる。

◆ 発注者の積算業務等の合理化・容易化

- ・ 標準的な積算内訳として定型化されることで、積算チェック・設計変更など効果的に積算業務を遂行するための環境が整備でき積算業務の合理化につながる。
- ・ 設計業務等の図面表記や数量のとりまとめの統一化が可能となり、工事発注時の図面修正や数量の拾い直しなどの作業を軽減できる。
- ・ 階層別に整理された積算内訳とすることにより、積算データの蓄積が容易となる。（積算結果の将来の活用等）

◆ 受注者の見積業務等の容易化

- ・ 記述方法が統一されることにより見積業務等が容易になる。

体系ツリー図における仮設関連の表示方法

コンサルタント会社の図面表記や数量のとりまとめ作業が容易になる。体系ツリー図の右側には、「積算単位」ならびに「工事数量表示単位」といった、2種類の単位が記載されている。積算単位は、積算書において積算を行う際に用いる（必要となる）単位であり、工事数量表示単位は、工事数量表に記載する単位であり、契約上の単位となる。両者は、基本的には、目的物に関しては同じものとなっているが、仮設物に関しては若干異ってくる。これは、たとえば、型枠の面積や、足場の面積のように、仮設物の数量を明記すること自体が受注者の任意性を阻害するおそれがあることによる。従って、仮設物の工事数量表示単位に関しては、基本的には、たとえば「式or m²」や「式or 掛m²」といったように、“式”という単位と、数量明示用の単位（＝積算単位）とが併記されている。

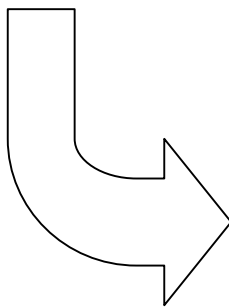
工事工種体系では、条件明示の観点からも、原則として表示単位を含めて積算書との対応を1：1としているが、任意仮設の場合など数量明示が施工の任意性を阻害するおそれのある場合には、その単位を1式として表示し、一方、指定仮設の場合など数量明示が必要となる場合には、“m²”や“掛m²”などの数量明示用の単位を用いることとなる。

【体系ツリー図】

工種	種別	細別	規格	積算単位	契約単位	
擁壁工	作業土工	床掘	【 - 】	m3	式	
		埋戻	【 - 】	m3	式	
	現場打ち擁壁工
		コンクリート	【規格】	m3	m3	
		
		型枠	【-】	m2	式	
		足場	【-】	掛m2	式	
		
	仮設土留・締切工	仮設鋼矢板	【規格】	枚	枚 or 式	
		仮設H型鋼杭	【規格】	本	本 or 式	
		切梁・腹起し	【規格】	t	t or 式	

【実施設計書・縦覧用設計書における表示】

〔実施設計書・縦覧用設計書では...〕



種別	細別	規格	積算単位
作業土工	床掘	【 - 】	m3
	埋戻	【 - 】	m3
現場打ち擁壁工
	コンクリート	【規格】	m3

	型枠	【-】	m2
	足場	【-】	掛m2

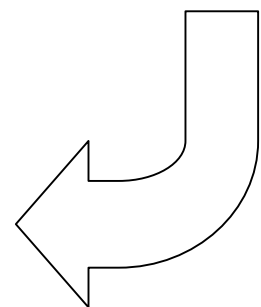
仮設土留・締切工	仮設鋼矢板	【規格】	枚
	仮設H型鋼杭	【規格】	本
	切張・腹起し	【規格】	t

【契約用設計書における表示】

種別	細別	規格	単位
作業土工	床掘		式
	埋戻		式
現場打ち擁壁工
	コンクリート	【規格】	m3

	型枠	【-】	式
	足場	【-】	式

仮設土留・締切工	仮設鋼矢板	【規格】	枚 or 式
	仮設H鋼杭	【規格】	本 or 式
	切梁・腹起し	【規格】	t or 式



〔契約用設計書では...〕

(注)原則として の部分が実施設計書・縦覧用設計書と異なる箇所。
 設計積算システム SMILES では対応できないので、任意仮設等監理する必要のない旨を設計書内訳書や特別仕様書等に明示すること

工事工事種体系ツリー

- | | |
|-------------|--------------|
| ○ ほ場整備工事 | ○ 橋梁下部工事 |
| ○ 農用地造成工事 | ○ 機場下部工事 |
| ○ 農道工事 | ○ 地すべり防止工事 |
| ○ 水路トンネル工事 | ○ 海岸工事 |
| ○ 水路工事 | ○ コンクリート補修工事 |
| ○ 河川及び排水路工事 | ○ その他土木(1)工事 |
| ○ 管水路工事 | ○ その他土木(2)工事 |
| ○ 畑かん施設工事 | ○ 仮設工 |
| ○ P C 橋工事 | ○ 共通仮設 |

工種区分 (A-1レベル) 01 ほ場整備工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
整地工	—— 整地工	—— 表土扱い (ほ場整備工)	【施工区分】	ha	ha
		—— 基盤造成・畦畔築立	【施工区分】	ha	ha
		—— 筆外運土	【土質】	m ³	m ³
		—— 雑物除去 (ほ場整備工)	【一】	ha	ha
	—— 整形仕上げ工	—— 法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		—— 法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
	—— 進入路工	—— 進入路	【一】	箇所	箇所
		—— 床版橋	【一】	箇所	箇所
	—— 暗渠排水工	—— 吸水渠	【規格】	m	m
		—— 集水渠 (ほ場整備工)	【規格】	m	m
		—— 捕水渠 (ほ場整備工)	【規格】	m	m
		—— 水甲	【規格】	箇所	箇所
		—— 弾丸暗渠 —— 自動埋設暗渠	【一】 【規格】	ha m	ha m
	—— 付帯工	—— 用水取水管	【規格】	m	m
—— 田面排水口		【規格】	箇所	箇所	
—— 柵		【規格】	箇所	箇所	
—— 植生工	—— 種子散布	【材料種別】	m ²	m ²	
	—— 植生マット	【材料種別】	m ²	m ²	
	—— 植生シート	【材料種別】	m ²	m ²	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
用水路工 (開水路)	作業残土処理工	繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²
		芝付	【材料種別】	m ²	m ²
	作業残土処理	人工芝付	【材料種別】	m ²	m ²
		作業残土処理	【一】	m ³	式
	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	【構造物種別】	m ³	m ³
		石積取壊し	【一】	m ³	m ³
		舗装版取壊し	【舗装種別、舗装厚】	m ²	m ²
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³
	作業土工	床掘	【一】	m ³	式
		埋戻	【一】	m ³	式
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
	植生工	種子散布	種子散布	【材料種別】	m ²
植生マット			【材料種別】	m ²	m ²
植生シート			【材料種別】	m ²	m ²
繊維ネット			【材料種別】	m ²	m ²
芝付			【材料種別】	m ²	m ²
人工芝付			【材料種別】	m ²	m ²
用水路工	鉄筋コンクリート管・管渠	鉄筋コンクリート管・管渠	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリート管・管渠	【規格】	m	m
		側溝蓋	【蓋種別・規格】	枚	枚
取水工	取水口 (分水工)	【規格】	箇所	箇所	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
用水路工 (管水路)	付帯工	柵	【規格】	箇所	箇所	
		管渠	【規格】	m	m	
		呑口・吐口トランジション	【一】	箇所	箇所	
	作業土工	床掘	【一】	m ³	式	式
		埋戻	【一】	m ³	式	式
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²	m ²
	植生工	種子散布	植生マット	【材料種別】	m ²	m ²
			植生シート	【材料種別】	m ²	m ²
			繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²
芝付			【材料種別】	m ²	m ²	
人工芝付			【材料種別】	m ²	m ²	
排水路工	鉄筋コンクリート管	鉄筋コンクリート管	【規格】	m	m	
		鉄筋コンクリート管	【規格】	m	m	
		鉄筋コンクリート柵渠	【規格】	m	m	
		鉄筋コンクリート大型管	【規格】	m	m	
付帯工	柵	【規格】	箇所	箇所		
	管渠	【規格】	m	m		
	呑口・吐口トランジション	【一】	箇所	箇所		
掘削工	掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
		軟岩掘削 硬岩掘削	【岩質】 【岩質】	m ³ m ³	m ³ m ³
	盛土工	流用土盛土 購入土盛土 発生土盛土	【土質】 【一】 【土質】	m ³ m ³ m ³	m ³ m ³ m ³
	路体盛土工	流用土路体 購入土路体 発生土路体 採取土路体	【一】 【一】 【一】 【一】	m ³ m ³ m ³ m ³	m ³ m ³ m ³ m ³
	路床盛土工	流用土路床 購入土路床 発生土路床 採取土路床	【一】 【一】 【一】 【一】	m ³ m ³ m ³ m ³	m ³ m ³ m ³ m ³
	路床安定処理工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部) 法面整形 (盛土部)	【土質】 【土質】	m ² m ²	m ² m ²
	植生工	種子散布 植生マット 植生シート 繊維ネット 筋芝 芝付 人工芝付	【材料種別】 【材料種別】 【材料種別】 【材料種別】 【材料種別】 【材料種別】 【材料種別】	m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ²

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
—	吹付工	客土吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
		植生基材吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
		モルタル吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
		コンクリート吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
	舗装準備工	不陸整正	【補足材種別】	m ²	m ²
		アスファルト舗装工	下層路盤	【材料種別・規格】	m ²
	上層路盤		【材料種別・規格】	m ²	m ²
	基層		【材料種別・規格】	m ²	m ²
	表層		【材料種別・規格】	m ²	m ²
	コンクリート舗装工	下層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		コンクリート舗装	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		目地材	【材料種別・規格】	m ²	m ²
	砂利舗装工	敷砂利	【材料種別・規格】	m ²	m ²

費目区分 (A-2 レベル) 直接工事費 (仮設工)

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2 レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2 レベル) 官貸額・支給品費

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
------------------	------------------	------------------	-----	------	--------------

工種区分 (A-1レベル) 02 農用地造成工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
基盤工	暗渠排水工	集水渠 (農用地造成工)	【規格】	m	m
	造成土工	表土扱い (農用地造成工)	【一】	ha	ha
		基盤造成 (土砂)	【土質】	m ³	m ³
		基盤造成 (軟岩)	【岩質】	m ³	m ³
		盛土法面転圧	【土質】	m ³	m ³
		基盤整地	【土質】	ha	ha
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
	法面排水工	鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリートベンチ型	【規格】	m	m
	法止工	床掘	【土質】	m ³	式
		ふとんかご	【規格】	m	m
じゃかご		【規格】	m	m	
柵工		【種別・規格】	m	m	
作業残土処理工	作業残土処理	【一】	m ³	式	
法面工	植生工	種子散布	【材料種別】	m ²	m ²
		植生マット	【材料種別】	m ²	m ²

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
畑面工	吹付工	植生シート	【材料種別】	m ²	m ²	
		繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²	
		芝付	【材料種別】	m ²	m ²	
		人工芝付	【材料種別】	m ²	m ²	
	畑面工	畑面工	客土吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
			植生基材吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
			モルタル吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
			コンクリート吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
			耕起深耕	【耕起深】	ha	ha
			石礫除去	【一】	ha	ha
道路工	畑面保全工	土壌改良材散布	【散布材種別】	ha	ha	
		有機質資材散布	【散布材種別】	ha	ha	
	畑面暗渠排水工	砕土	【土質】	ha	ha	
		雑物除去（農用地造成工）	【一】	ha	ha	
	掘削工	承水路	【土質】	m	m	
		畑面植生	【散布材種別】	ha	ha	
	盛土工	吸水渠	吸水渠	【規格】	m	m
			補水渠（農用地造成工）	【規格】	m	m
		掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
			軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
盛土工		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³	
		流入土盛土	【土質】	m ³	m ³	
	購入土盛土	【一】	m ³	m ³		
	養生土盛土	【土質】	m ³	m ³		

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
		採取土盛土	【土質】	m ³	m ³
	路体盛土工	流用土路体 購入土路体 発生土路体 採取土路体	【-】 【-】 【-】 【-】	m ³ m ³ m ³ m ³ m ³	m ³ m ³ m ³ m ³ m ³
	路床盛土工	流用土路床 購入土路床 発生土路床 採取土路床	【-】 【-】 【-】 【-】	m ³ m ³ m ³ m ³	m ³ m ³ m ³ m ³
	路床安定処理工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部) 法面整形 (盛土部)	【土質】 【土質】	m ² m ²	m ² m ²
	舗装準備工	不陸整正	【補足材種別】	m ²	m ²
	アスファルト舗装工	下層路盤 上層路盤 基層 表層	【材料種別・規格】 【材料種別・規格】 【材料種別・規格】 【材料種別・規格】	m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ²
	コンクリート舗装工	下層路盤 上層路盤 コンクリート舗装 目地材	【材料種別・規格】 【材料種別・規格】 【材料種別・規格】 【材料種別・規格】	m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ²
	砂利舗装工	敷砂利	【材料種別・規格】	m ²	m ²

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
排水路工	排水路工	集水路	【規格】	m	m	
		側溝蓋	【規格】	枚	枚	
		集水柵	【規格】	箇所	箇所	
		急流工	【材料種別・規格】	m	m	
ほ場内沈砂池工	ほ場内沈砂池工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³	
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³	
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³	
		法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²	
		ふとんかご	【規格】	m	m	
		じゃかご	【規格】	m	m	
		柵工	【規格】	m	m	
			【種別・規格】	m	m	
防災施設工	作業土工	床掘	【-】	m ³	式	
		埋戻	【-】	m ³	式	
	ほ場外沈砂池工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³	
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³	
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³	
		法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²	
		ふとんかご	【規格】	m	m	
		じゃかご	【規格】	m	m	
		柵工	【規格】	m	m	
			【種別・規格】	m	m	
	洪水調整池工	洪水調整池工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
			軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
			硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
			堤体盛土	【土質】	m ³	m ³
法面整形 (掘削部)			【土質】	m ²	m ²	
法面整形 (盛土部)			【土質】	m ²	m ²	
	【規格】	m	m			

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
—	— 植生工	— じゃかご	【規格】	m	m	
		— 柵工	【種別・規格】	m	m	
	— 種子散布	— 植生マット	【材料種別】	m ²	m ²	m ²
		— 植生シート	【材料種別】	m ²	m ²	m ²
		— 繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²	m ²
		— 芝付	【材料種別】	m ²	m ²	m ²
		— 人工芝付	【材料種別】	m ²	m ²	m ²
		—	【材料種別】	m ²	m ²	m ²
	— 洪水吐工	— 基礎材	【規格】	m ²	m ²	m ²
		— 均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³	m ³
		— コンクリート	【規格】	m ³	m ³	m ³
		— 鉄筋	【規格】	t	t	t
— 型枠		【—】	m ²	式	式	
— 目地材		【材料種別・規格】	m ²	m ²	m ²	
— 放流工	— 基礎材	【規格】	m ²	m ²	m ²	
	— 均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³	m ³	
	— コンクリート	【規格】	m ³	m ³	m ³	
	— 鉄筋	【規格】	t	t	t	
	— 型枠	【—】	m ²	式	式	
	— 目地材	【材料種別・規格】	m ²	m ²	m ²	

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「官貸額・支給品費」参照]					

工種区分 (A-1レベル) 03 農道工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
土工	掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
	盛土工	流用土盛土	【土質】	m ³	m ³
		発生土盛土	【土質】	m ³	m ³
		採取土盛土	【土質】	m ³	m ³
		購入土盛土	【-】	m ³	m ³
	路体盛土工	流用土路体	【-】	m ³	m ³
		発生土路体	【-】	m ³	m ³
		採取土路体	【-】	m ³	m ³
		購入土路体	【-】	m ³	m ³
	路床盛土工	流用土路床	【-】	m ³	m ³
		発生土路床	【-】	m ³	m ³
		採取土路床	【-】	m ³	m ³
		購入土路床	【-】	m ³	m ³
整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²	
	法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²	
作業残土処理工	作業残土処理	【-】	m ³	式	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
地盤改良工	安定処理工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²	
		サンドマット工	安定処理	【規格】	m ²	m ²
			安定シート	【規格、種別】	m ²	m ²
		バークウッドレン工	サンドドレーン	【規格】	本	本
			袋詰式サンドドレーン	【規格】	本	本
			ペーパードレーン	【規格】	本	本
		締め改良工	サトコソバクソソパイル	【規格】	本	本
			固結工	粉体噴射攪拌	【規格、種別】	本
		スラリー攪拌		【規格、種別】	本	本
		高圧噴射攪拌		【規格、種別】	本	本
		生石灰パイル		【規格】	本	本
		薬液注入		【規格、種別】	本	本
		中層混合処理		【規格】	m ³	m ³
法面工	作業土工	床掘	【-】	m ³	式	
		埋戻	【-】	m ³	式	
	植生工	種子散布	【材料種別】	m ²	m ²	
		客土吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²	
		植生基材吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²	
		植生マット	【材料種別】	m ²	m ²	
		植生シート	【材料種別】	m ²	m ²	
		繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²	
		筋芝	【材料種別】	m ²	m ²	
		芝付	【材料種別】	m ²	m ²	
		人工芝付	【材料種別】	m ²	m ²	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
擁壁工	法面吹付工	モルタル吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²	
		コンクリート吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²	
		法砕工	現場打法砕	【規格、中詰種別】	m ²	m ²
			プレキャスト法砕	【規格、中詰種別】	m ²	m ²
	アンカー工	プレキャストコンクリート板吹付砕	【規格】	枚	枚	
		アンカー	【規格、種別】	m ²	m ²	
	かご工	ロックボルト	【規格】	本	本	
		じゃかご	【規格】	本	本	
	作業土工	ふとんかご	【規格】	m	m	
		床掘埋戻	【規格】	m	m	
	安定処理工	安定処理	【(-)】	m ³	式	
		安定処理	【(-)】	m ³	式	
	既製杭工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²	
既製コンクリート杭			【杭規格】	本	本	
カットオフ			【杭規格】	本	本	
殻運搬			【殻種別】	m ³	m ³	
殻運搬・処理			【殻種別】	m ³	m ³	
場所打杭工	鋼管杭	【規格】	本	本		
		場所打杭	【杭規格】	本	本	
		杭土処理	【(-)】	m ³	m ³	
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³	
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³	
泥水処理	【(-)】	m ³	m ³			

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
—	— 現場打擁壁工	— 基礎材	【規格】	m ²	m ²
		— 裏込砕石	【規格】	m ³	m ³
		— 均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³
		— コンクリート	【規格】	m ³	m ³
		— 鉄筋	【規格】	t	t
		— 目地材	【規格、種別】	m ²	m ²
		— 止水板	【規格】	m	m
		— 吸出し防止材	【規格、種別】	m ²	m ²
		— 水抜きパイプ	【規格】	箇所	箇所
		— 型枠	【—】	m ²	式
— 足場	【—】	掛m ²	式		
—	— プレキャスト擁壁工	— プレキャスト擁壁	【規格】	m	m
		— 鉄止めブロック	【規格】	m	m
		—			
—	— 補強土壁工	— 補強土壁基礎	【規格】	m	m
		— 補強土壁	【規格、種別】	m ²	m ²
—	— 小型擁壁工	— 現場打小型擁壁	【規格】	m	m
石・ブロック積(張)工	— 作業土工	— 床掘	【—】	m ³	式
		— 埋戻	【—】	m ³	式

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
—	— コンクリートブロック工	— コンクリートブロック基礎	【規格】	m	m
		— コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²
		— 裏込材	【規格】	m ³	m ³
		— 天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³
		— コンクリートブロック張り	【構造種別】	m ²	m ²
		— 小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³
	— 大型コンクリートブロック工	— コンクリートブロック基礎	【規格】	m	m
		— 大型コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²
		— 天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³
		— 大型コンクリートブロック張り	【構造種別】	m ²	m ²
		— 小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³
	— 緑化ブロック工	— 緑化ブロック基礎	【規格】	m	m
		— 緑化ブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²
		— ブロック植栽	【植物種別】	本	本
		— 裏込材	【規格】	m ³	m ³
— 天端コンクリート		【規格】	m ³	m ³	
— 石積 (張) 工	— 石積基礎	【規格】	m	m	
	— 石積み	【構造種別】	m ²	m ²	
	— 裏込材	【規格】	m ³	m ³	
	— 天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³	
	— 石張り	【構造種別】	m ²	m ²	
カルバート工	— 作業土工	— 床掘	【—】	m ³	式
		— 埋戻	【—】	m ³	式
	— 安定処理工	— 安定処理	【添加材種別】	m ³	m ³

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
—	既製杭工	既製コンクリート杭	【杭規格】	本	本	
		カットオフ	【杭規格】	本	本	
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³	
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³	
		鋼管杭	【規格】	本	本	
	—	場所打杭工	場所打杭	【規格】	本	本
			杭土処理	【—】	m ³	m ³
			殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
			殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³
			泥水処理	【—】	m ³	m ³
	—	現場打カルバート工	基礎材	【規格】	m ²	m ²
			均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³
			鉄筋	【規格】	t	t
			目地材	【規格、種別】	m ²	m ²
止水板			【規格】	m	m	
水抜きパイプ			【規格】	箇所	箇所	
型枠			【—】	m ²	式	
支保			【—】	空m ³	式	
足場			【—】	掛m ²	式	
—	プレキャストカルバート工	プレキャストボックス	【規格】	m	m	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
小型水路工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式	
		埋戻	【一】	m ³	式	
	側溝工	鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m	m
		鉄筋コンクリート側溝	【規格】	m	m	m
		コルゲートフレリューム	【規格】	m	m	m
		自由勾配側溝	【規格】	m	m	m
	側溝蓋	【規格、種別】	枚	枚	枚	
管渠工	管渠	【規格】	m	m	m	
集水柵工	集水柵	集水柵	【規格】	箇所	箇所	
	地下排水工	暗渠排水	【規格、種別】	m	m	
	作業土工	床掘	【一】	m ³	式	
落石防護工	作業土工	埋戻	【一】	m ³	式	
		落石防止網工	【金網規格】	m ²	m ²	
	落石防止網工	落石防止網 (金網+ロープ)	【アンカー規格】	箇所	箇所	
		落石防止網 (アンカー)	【種別】	箇所	箇所	
		落石防止網 (ホックト支柱)	【金網規格】	m	m	
	落石防止柵工	落石防護柵 (金網+ロープ)	【金網規格】	m	m	
落石防護柵 (スチール)		【種別】	本	本		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	【構造物種別】	m ³	m ³
		石積取壊し	【一】	m ³	m ³
		舗装版取壊し	【舗装種別、舗装厚】	m ²	m ²
		吹付法取壊し	【一】	m ²	m ²
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
舗装工	舗装準備工	不陸整正	【補足材種別】	m ²	m ²
		アスファルト舗装工	【材料種別、規格】	m ²	m ²
	コンクリート舗装工	下層路盤	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		基層	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		表層	【材料種別、規格】	m ²	m ²
	砂利舗装工	下層路盤	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		コンクリート舗装	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		転圧コンクリート舗装	【材料種別、規格】	m ²	m ²
路面排水工	作業土工	敷砂利	【材料種別、規格】	m ²	m ²
		床掘	【一】	m ³	式
	側溝工	埋戻	【一】	m ³	式
		L形側溝	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリート側溝	【規格】	m	m
側溝蓋	【蓋種別、規格】	枚	枚		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
付帯施設工	管渠工	管渠	【規格】	m	m
	集水柵工	集水柵	【種別、規格】	箇所	箇所
付帯施設工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式
		埋戻	【一】	m ³	式
	安全施設工	ガードレール	【規格】	m	m
		ガードケープル	【規格】	m	m
		ガードパイプ	【規格】	m	m
		横断・転落防止柵	【規格】	m	m
		ネットフェンス	【規格】	m	m
		フェンス扉	【規格】	組	組
	標識工	路側標識	【規格】	基	基
		標識板	【規格】	枚	枚
区画線工	区画線	区画線	【種別、規格】	m	m
		高視認性区画線	【種別、規格】	m	m
	仮区画線	【種別、規格】	m	m	
	区画線消去	【一】	m	m	
縁石工	アスファルトカーブ	【規格】	m	m	
	境界ブロック	【種別、規格】	m	m	
境界工	境界杭	【規格】	本	本	
	視線誘導標	【規格】	本	本	
付属物工					

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「官貸額・支給品費」参照]					

工種区分 (A-1レベル) 04 水路トンネル工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
土工 (明かり部)	掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
	盛土工	流用土盛土	【土質】	m ³	m ³
		発生土盛土	【土質】	m ³	m ³
		採取土盛土	【土質】	m ³	m ³
		購入土盛土	【一】	m ³	m ³
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
	作業残土処理工	作業残土処理	【一】	m ³	式
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	【構造物種別】	m ³	m ³
		石積取壊し	【一】	m ³	m ³
		舗装版取壊し	【舗装種別、舗装厚】	m ²	m ²
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
トンネル工	トンネル掘削工	トンネル掘削	【トンネルタイプ°】	m	m
		ずり処理	【一】	m ³	m ³

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
坑門工	覆工	覆工コンクリート	【トンナゲ、コクリート規格】	m	m	
		鉄筋 (トンネル)	【規格】	t	t	
		止水板 (トンネル)	【規格】	箇所	箇所	
		収縮目地 (トンネル)	【-】	箇所	箇所	
	裏込注入工	裏込グラウト	グラウト注入工	【注入材種類、配合】	m ³	m ³
			足場	【材料種別・規格】	孔	孔
				【-】	掛m2	式
	水抜工	ウエアホール (トンネル)	アンダードレン (トンネル)	【規格】	箇所	箇所
			サイドドレン (トンネル)	【材料・規格】	m	m
			ドレン流出弁 (トンネル)	【材料・規格】	m	m
				【規格】	箇所	箇所
	作業土工	床掘	埋戻	【-】	m ³	式
				【-】	m ³	式
	コンクリート工	基礎材	均しコンクリート	【規格】	m ²	m ²
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³
鉄筋			【規格】	m ³	m ³	
型枠			【規格】	t	t	
足場			【-】	m ²	式	
支保			【-】	掛m ²	式	
			【-】	空m ³	式	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位			
トランジション工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式			
		埋戻	【一】	m ³	式			
	トランジション工	基礎材	均しコンクリート	【規格】	m ²	m ²		
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
			鉄筋	【規格】	m ³	m ³		
			型枠	【規格】	t	t		
			足場	【一】	m ²	式		
			止水板	【一】	掛m ²	式		
			目地材	【規格】	m	m		
			収縮目地	【材料・規格】	m ²	m ²		
			ダウエルバー	【一】	m ²	m ²		
			ワイープホール	【規格】	本	本		
			サイドドレイン	【規格】	箇所	箇所		
			アンダードレイン	【材料・規格】	m	m		
				【材料・規格】	m	m		
			付帯工	安全施設工	手摺	【規格】	m	m
					ガードレール	【規格】	m	m
ネットフェンス	【形式・規格】	m			m			
フェンス扉	【形式・規格】	組			組			
ステップ	【規格】	個			個			
スクリーン	【規格】	箇所			箇所			
法面保護工	種子散布	【材料種別】		m ²	m ²			
	植生マット	【材料種別】		m ²	m ²			
	植生シート	【材料種別】		m ²	m ²			
	繊維ネット	【材料種別】		m ²	m ²			

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
		<ul style="list-style-type: none"> — 植生基材吹付 — モルタル吹付 — コンクリート吹付 — 吹付枠 	<ul style="list-style-type: none"> 【材料種別、吹付厚】 【材料種別、吹付厚】 【材料種別、吹付厚】 【材料種別、形状寸法】 	<ul style="list-style-type: none"> m² m² m² m² 	<ul style="list-style-type: none"> m² m² m² m²

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「官貸額・支給品費」参照]					

工種区分 (A-1レベル) 05 水路工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
土 工	掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
	盛土工	流用土盛土	【土質】	m ³	m ³
		購入土盛土	【一】	m ³	m ³
		発生土盛土	【土質】	m ³	m ³
		採取土盛土	【土質】	m ³	m ³
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
	作業残土処理工	作業残土処理	【一】	m ³	式
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	【構造物種別】	m ³	m ³
		石積取壊し	【一】	m ³	m ³
		舗装版取壊し	【舗装種別、舗装厚】	m ²	m ²
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³
基礎工	安定処理工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²
		既製杭工	【杭規格】	本	本
	既製杭工	既製コンクリート杭 カットオフ 殻運搬 殻運搬・処理 鋼管杭	【杭規格】 【杭規格】 【殻種別】 【殻種別】 【規格】	本 本 m ³ m ³ 本	本 本 m ³ m ³ 本

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
開渠工	作業土工	床堀	【一】	m ³	式	
		埋戻	【一】	m ³	式	
	現場打開渠工	基礎材	均しコンクリート	【規格】	m ²	m ²
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³
			鉄筋	【規格】	m ³	m ³
			型枠	【規格】	t	t
			足場	【一】	m ²	式
			止水板	【一】	掛m ²	式
			目地材	【規格】	m	m
			収縮目地	【材料種別・規格】	m ²	m ²
			ダウエルバー	【一】	m ²	m ²
			【規格】	本	本	本
	プレキャスト開渠工	基礎材	均しコンクリート	【規格】	m ²	m ²
			鉄筋コンクリート大型フレーム	【規格】	m ³	m ³
			鉄筋コンクリートL形水路	【規格】	m	m
			シール	【規格】	m	m
			足場	【材料種別】	m	m
【一】			掛m ²	式		
【一】			掛m ²	式		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位			
暗渠工	作業土工	床堀	【一】	m ³	式			
		埋戻	【一】	m ³	式			
	現場打暗渠工	基礎材 均しコンクリート コンクリート 鉄筋 型枠 足場 止水板 目地材 収縮目地 ダウエルバー 支保	基礎材	【規格】	m ²	m ²		
			均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³		
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
			鉄筋	【規格】	t	t		
			型枠	【一】	m ²	式		
			足場	【一】	掛m ²	式		
			止水板	【規格】	m	m		
			目地材	【材料種別・規格】	m ²	m ²		
			収縮目地	【一】	m ²	m ²		
			ダウエルバー	【規格】	本	本		
			支保	【一】	空m ³	式		
			プレキャスト暗渠工	プレキャストボックス シール	プレキャストボックス	【規格】	m	m
					シール	【材料種別】	m	m

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
分水工	作業土工	床堀	【-】	m ³	式	
		埋戻	【-】	m ³	式	
	分水工	基礎材	均しコンクリート	【規格】	m ²	m ²
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³
			鉄筋	【規格】	m ³	m ³
			型枠	【規格】	t	t
			足場	【-】	m ²	式
			止水板	【-】	掛m ²	式
			目地材	【規格】	m	m
			収縮目地	【材料種別・規格】	m ²	m ²
			ダウエルバー	【-】	m ²	m ²
			支保	【規格】	本	本
			空	【-】	空m ³	式
			落差工	作業土工	床堀	【-】
埋戻	【-】	m ³			式	
落差工	基礎材	均しコンクリート		【規格】	m ²	m ²
		コンクリート		【規格】	m ³	m ³
		鉄筋		【規格】	m ³	m ³
		型枠		【規格】	t	t
		足場		【-】	m ²	式
		止水板		【-】	掛m ²	式
		目地材		【規格】	m	m
		収縮目地		【材料種別・規格】	m ²	m ²
		ダウエルバー		【-】	m ²	m ²
		支保		【規格】	本	本

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
水路付帯工	水抜き工	ワイプホール	【規格】	箇所	箇所	
		サイドドレイン	【材料種別・規格】	m	m	
		アンダードレイン	【材料種別・規格】	m	m	
		ドレイン流出弁	【弁種別・規格】	箇所	箇所	
	付帯施設工	スクリーン	【規格】	箇所	箇所	
		手摺	【規格】	m	m	
		蓋	【蓋種別・規格】	枚	枚	
	安全施設工	ガードレール	ガードレール	【規格】	m	m
			ネットフェンス	【形式・規格】	m	m
			フェンス扉	【形式・規格】	組	組
			ステップ	【規格】	個	個
			落石防止網 (金網+ロープ)	【形式・規格】	m ²	m ²
			落石防止網 (アンカー)	【規格】	箇所	箇所
横断・転落防止柵			【規格】	m	m	
用地境界杭工	境界杭	【規格・施工区分】	本	本		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
擁壁工	作業土工	床堀	【一】	m ³	式	
		埋戻	【一】	m ³	式	
	現場打擁壁工	基礎材	【規格】	m ²		
		裏込砕石	【規格】	m ³		
		均しコンクリート	【規格】	m ³		
		コンクリート	【規格】	m ³		
		鉄筋	【規格】	t		
		型枠	【一】	m ²		
		足場	【一】	掛m ²		
		目地材	【材料種別・規格】	m ²		
	止水板	【規格】	m			
	水抜きパイプ	【管規格、710φ-材規格】	箇所			
	吸出し防止材	【規格】	m ²			
	ブレイクスト擁壁工	ブレイクストL型擁壁	【規格】	m		
		ブレイクスト逆T型擁壁	【規格】	m		
石積工	石積み	石積基礎	【規格】	m		
		石積み	【構造種別】	m ²		
		裏込材	【規格】	m ³		
		天端コンクリート	【規格】	m ³		
コンクリートブロック工	コンクリートブロック	コンクリートブロック基礎	【規格】	m		
		コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²		
		裏込材	【規格】	m ³		
		天端コンクリート	【規格】	m ³		
		小口止コンクリート	【規格】	m ³		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位		
法面工	大型コンクリートブロック工	コンクリートブロック基礎	【規格】	m	m		
		大型コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²		
		天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
		大型コンクリートブロック張り	【構造種別】	m ²	m ²		
		小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
法面工	植生工	種子散布	【材料種別】	m ²	m ²		
		植生マット	【材料種別】	m ²	m ²		
		植生シート	【材料種別】	m ²	m ²		
		繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²		
		筋芝	【材料種別】	m ²	m ²		
		芝付	【材料種別】	m ²	m ²		
		人工芝付	【材料種別】	m ²	m ²		
		吹付工	客土吹付	客土吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
				植生基材吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
				モルタル吹付	【材料規格、吹付厚】	m ²	m ²
コンクリート吹付	【材料規格、吹付厚】			m ²	m ²		
耕地復旧工	水田復旧工	表土掘削・埋戻	【表土厚】	m ²	m ²		
		暗渠排水	【規格】	m	m		
		畦畔復旧	【形状】	m	m		
		表土掘削・埋戻	【表土厚】	m ²	m ²		
		心土破碎	【耕起深】	ha	ha		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
道路復旧工	路体盛土工	流用土路体	【一】	m ³	m ³
		購入土路体	【一】	m ³	m ³
		発生土路体	【一】	m ³	m ³
		採取土路体	【一】	m ³	m ³
	路床盛土工	流用土路床	【一】	m ³	m ³
		購入土路床	【一】	m ³	m ³
		発生土路床	【一】	m ³	m ³
		採取土路床	【一】	m ³	m ³
	舗装準備工	不陸整正	【補足材種別】	m ²	m ²
	アスファルト舗装工	下層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		基層	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		表層	【材料種別・規格】	m ²	m ²
	コンクリート舗装工	下層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
コンクリート舗装		【材料種別・規格】	m ²	m ²	
目地材		【材料種別・規格】	m ²	m ²	
砂利舗装工	敷砂利	【材料種別・規格】	m ²	m ²	
道路用側溝工	鉄筋コンクリートU形 鉄筋コンクリート側溝 L形側溝 自由勾配側溝 側溝蓋	【規格】	m	m	
		【規格】	m	m	
		【規格】	m	m	
		【規格】	m	m	
		【蓋種別・規格】	m	枚	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
—	— 安全施設工	— ガートレール	【規格】	m	m
		— ガートケージ	【規格】	m	m
		— ガートパイプ	【規格】	m	m
—	— 区画線工	— 区画線	【種別・規格】	m	m
		— 縁石工	【—】	m	m
水路復旧工	— 土水路工	— アスファルトカーブ	【種別・規格】	m	m
		— 境界ブロック	【種別・規格】	m	m
		— 土水路	【—】	m	m
		— 鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m
		— 鉄筋コンクリートベンチリュム	【規格】	m	m
—	— プレキャスト水路工	— 鉄筋コンクリート柵渠	【規格】	m	m
		— 遠心力鉄筋コンクリート管	【規格】	m	m
		— 分水槽	【規格】	箇所	箇所

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「官貸額・支給品費」参照]					

工種区分 (A-1レベル) 06 河川及び排水路工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
土工	掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
	盛土工	流用土盛土	【土質】	m ³	m ³
		購入土盛土	【一】	m ³	m ³
		発生土盛土	【土質】	m ³	m ³
		採取土盛土	【土質】	m ³	m ³
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
	作業残土処理工	作業残土処理	【一】	m ³	式
地盤改良工	安定処理工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²
	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し ガス切断 鋼矢板引抜 油圧式杭圧入引抜機据付・解体 根固めブロック撤去 石積取壊し 舗装版取壊し 殻運搬 殻運搬・処理	【構造物種別】 【板厚】 【型式、引抜長】 【規格】 【ブロック規格】 【一】 【舗装種別、舗装厚】 【殻種別】 【殻種別】	m ³ m 枚 回 個 m ³ m ² m ³ m ³	m ³ m 枚 回 個 m ³ m ² m ³ m ³

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
矢板護岸工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式	
		埋戻	【一】	m ³	式	
		笠コンクリート	【底幅、高さ】	m	m	
法覆護岸工	作業土工	鋼矢板	【種別、材質、型式、長さ】	枚	枚	
		油圧式杭圧入引抜機据付・解体	【規格】	回	回	
		コンクリート矢板	【規格】	枚	枚	
	コンクリートブロック工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式
			埋戻	【一】	m ³	式
		大型コンクリートブロック張り	コンクリートブロック張り	【ブロック規格】	m ²	m ²
			コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²
			連節ブロック張り	【ブロック規格(型)】	m ²	m ²
			天端保護ブロック	【ブロック規格(型)】	m ²	m ²
			裏込材	【規格】	m ³	m ³
			天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³
			コンクリートブロック基礎	【規格】	m	m
小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³			
大型コンクリートブロック工	大型コンクリートブロック張り	大型コンクリートブロック張り	【構造種別】	m ²	m ²	
		大型コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²	
		連節ブロック張り	【ブロック規格(型)】	m ²	m ²	
		天端保護ブロック	【ブロック規格(型)】	m ²	m ²	
		天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³	
		コンクリートブロック基礎	【規格】	m	m	
		小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
多自然型護岸工	多自然型護岸工	多自然型護岸工 (木杭打設)	【杭長、杭径】	本	本
	覆土工	採取土覆土 購入土覆土	【土質】 【土質】	m ³ m ³	m ³ m ³
	羽口工	じやかご ふとんかご	【かご径、止杭規格】 【幅、高さ】	m m	m m
根固め工	作業土工	床堀 埋戻	【-】 【-】	m ³ m ³	式 式
	根固めブロック工	根固めブロック製作・据付	【ブロック規格】	個	個
	捨石工	捨石 表面均し	【石材規格】 【-】	m ³ m ²	m ³ m ²
柵渠工	作業土工	床堀 埋戻	【-】 【-】	m ³ m ³	式 式
	柵渠工	鉄筋コンクリート柵渠	【規格】	m	m
合流工	作業土工	床堀 埋戻	【-】 【-】	m ³ m ³	式 式
	合流工	基礎材 均しコンクリート コンクリート 鉄筋 型枠 足場	【規格】	m ²	m ²
			【規格】	m ³	m ³
【規格】			m ³	m ³	
			【規格】	t	t
			【-】	m ²	式
			【-】	掛m ²	式

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
水路付帯工	安全施設工	止水板	【規格】	m	m	
		目地材	【材料種別・規格】	m ²	m ²	
		収縮目地	【一】	m ²	m ²	
		ダウエルバー	【規格】	本	本	
	用地境界杭工	支保	【一】	空m ³	式	式
		ガートレール	【規格】	m	m	
	擁壁工	作業土工	ネットアレンス	【形式・規格】	m	m
			フェンス扉	【形式・規格】	組	組
		安定処理工	ステップ	【規格】	個	個
			境界杭	【規格・施工区分】	本	本
現場打擁壁工		床堀	【一】	m ³	式	式
		埋戻	【一】	m ³	式	式
コンクリートブロック工		安定処理工	安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²
			基礎材	【規格】	m ²	m ²
		コンクリートブロック積み	裏込砕石	【規格】	m ³	m ³
			均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³
	コンクリート		【規格】	m ³	m ³	
	鉄筋		【規格】	t	t	
	型枠		【一】	m ²	式	
	足場		【一】	掛m ²	式	
	目地材		【材料種別・規格】	m ²	m ²	
	止水板		【規格】	m	m	
水抜きパイプ	【管規格、7/8材規格】	箇所	箇所			
吸出し防止材	【規格】	m ²	m ²			
コンクリートブロック基礎	コンクリートブロック基礎	【規格】	m ²	m ²		
	コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
法面工	大型コンクリートブロック工	裏込材	【規格】	m ³	m ³	
		天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³	
		水抜きパイプ	【規格】 【管規格、710φ-材規格】	箇所	箇所	
		小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³	
	種子散布	コンクリートブロック基礎	【規格】	m	m	m ²
		大型コンクリートブロック積み	【構造種別】	m ²	m ²	m ²
		天端コンクリート	【規格】	m ³	m ³	m ³
		水抜きパイプ	【規格】 【管規格、710φ-材規格】	箇所	箇所	
		小口止コンクリート	【規格】	m ³	m ³	
		種子散布	【材料種別】	m ²	m ²	
	耕地復旧工	水田復旧工	種子散布	【材料種別】	m ²	m ²
			植生マット	【材料種別】	m ²	m ²
		畑地復旧工	植生シート	【材料種別】	m ²	m ²
			繊維ネット	【材料種別】	m ²	m ²
筋芝			【材料種別】	m ²	m ²	
芝付			【材料種別】	m ²	m ²	
人工芝付			【材料種別】	m ²	m ²	
表土掘削・埋戻			【表土厚】	m ²	m ²	
暗渠排水	【規格】	m	m			
畦畔復旧	【形状】	m	m			
道路復旧工	水田復旧工	表土掘削・埋戻	【表土厚】	m ²	m ²	
		心土破碎	【耕起深】	ha	ha	
	畑地復旧工	表土掘削・埋戻	【表土厚】	m ²	m ²	
		心土破碎	【耕起深】	ha	ha	
道路復旧工	路体盛土工	流用土路体	【-】	m ³	m ³	
		購入土路体	【-】	m ³	m ³	
		発生土路体	【-】	m ³	m ³	
		採取土路体	【-】	m ³	m ³	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
—	— 路床盛土工	— 流用土路床	【一】	m ³	m ³
		— 購入土路床	【一】	m ³	m ³
		— 発生土路床	【一】	m ³	m ³
		— 採取土路床	【一】	m ³	m ³
	— 路床安定処理工	— 安定処理	【添加材種別】	m ²	m ²
		— 舗装準備工	【補足材種別】	m ²	m ²
	— アスファルト舗装工	— 下層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		— 上層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		— 基層	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		— 表層	【材料種別・規格】	m ²	m ²
	— コンクリート舗装工	— 下層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		— 上層路盤	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		— コンクリート舗装	【材料種別・規格】	m ²	m ²
		— 目地材	【材料種別・規格】	m ²	m ²
	— 砂利舗装工	— 敷砂利	【材料種別・規格】	m ²	m ²
— 道路用側溝工	— 鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m	
	— 鉄筋コンクリート側溝	【規格】	m	m	
	— L形側溝	【規格】	m	m	
	— 自由勾配側溝	【規格】	m	m	
	— 側溝蓋	【蓋種別・規格】	枚	枚	
— 安全施設工	— ガートレール	【規格】	m	m	
	— ガートケージ	【規格】	m	m	
	— ガートパイプ	【規格】	m	m	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
水路復旧工	区画線工	区画線	【種別・規格】	m	m
	緑石工	アスファルトカーブ 境界ブロック	【-】 【種別・規格】	m m	m m
水路復旧工	プレキャスト水路工	土水路	【-】	m	m
		鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリートベンチリューム	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリート柵渠	【規格】	m	m
		遠心力鉄筋コンクリート管	【規格】	m	m
		分水槽	【規格】	箇所	箇所

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「官貸額・支給品費」参照]					

工種区分 (A-1レベル) 07 管水路工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
土工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式
		埋戻	【一】	m ³	式
	掘削工	土砂掘削	【土質】	m ³	m ³
		軟岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
		硬岩掘削	【岩質】	m ³	m ³
	盛土工	流用土盛土	【土質】	m ³	m ³
		購入土盛土	【土質】	m ³	m ³
		発生土盛土	【土質】	m ³	m ³
	整形仕上げ工	法面整形 (掘削部)	【土質】	m ²	m ²
		法面整形 (盛土部)	【土質】	m ²	m ²
作業残土処理工		【一】	m ³	式	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	【構造物種別】	m ³	m ³
		石積取壊し	【一】	m ³	m ³
		舗装版取壊し	【舗装種別、舗装厚】	m ²	m ²
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
		殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
管体基礎工	砂基礎工	砂基礎	【材料】	m ³	m ³
	砕石基礎工	砕石基礎	【材料】	m ³	m ³
	コンクリート基礎工	コンクリート基礎	【材料、規格】	m ³	m ³
管体工	硬質ポリ塩化ビニル管 布設工	硬質ポリ塩化ビニル管	【規格】	m	m
		硬質ポリ塩化ビニル管継手材	【規格】	個	個or式
	強化プラスチック 複合管布設工	強化プラスチック複合管	【管径、管種】	m	m
		異形管	【管径、管種】	本	本
		継輪	【呼び径、形式】	本	本
	ダクタイル鉄管 布設工	ダクタイル鉄管	【管径、管種】	m	m
		異形管	【管径、管種】	本	本
	鋼管布設工	鋼管	【管径、板厚】	m	m
		異形管	【管径、管種】	本	本
	弁設置工	弁類	【種別、口径】	基	基
	プラスチックバルブート工	プラスチックボックス	【規格】	m	m
シール		【材料種別】	m	m	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
分水弁室工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式	
		埋戻	【一】	m ³	式	
	弁室工	基礎材	均しコンクリート	【材料、規格】	m ²	m ²
			コンクリート	【規格】	m ³	m ³
			鉄筋	【規格】	m ³	m ³
			型枠	【規格】	t	t
			足場	【一】	m ²	式
			支保	【一】	掛m ²	式
			蓋	【一】	空m ³	枚
			マンホール	【一】	箇所	箇所
			通気孔	【一】	箇所	箇所
			ステップ	【一】	個	個
			振れ止め金具	【一】	箇所	箇所
			排泥弁室工	付帯施設設置工	ネットフェンス	【形式、規格】
フェンス扉	【形式、規格】	組			組	
敷砂利	【材料、舗装厚】	m ²			m ²	
作業土工	床掘	【一】		m ³	式	
	埋戻	【一】		m ³	式	
弁室工	基礎材	均しコンクリート		【材料、規格】	m ²	m ²
		コンクリート		【規格】	m ³	m ³
		鉄筋		【規格】	m ³	m ³
		型枠		【規格】	t	t
		足場		【一】	m ²	式
		支保		【一】	掛m ²	式
		蓋		【一】	空m ³	式
		振れ止め金具		【一】	枚	枚

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
空気弁室工	付帯施設設置工	マンホール	【-】	箇所	箇所
		通気孔	【-】	箇所	箇所
		ステップ	【-】	個	個
		振れ止め金具	【-】	箇所	箇所
	作業土工	ネットフェンス	【形式、規格】	m	m
		フェンス扉	【形式、規格】	組	組
		敷砂利	【材料、舗装厚】	m ²	m ²
		床掘	【-】	m ³	式
		埋戻	【-】	m ³	式
		弁室工	基礎材	【材料、規格】	m ²
流量計室工	作業土工	均しコンクリート	【規格】	m ³	m ³
		コンクリート	【規格】	m ³	m ³
		鉄筋	【規格】	t	t
		型枠	【-】	m ²	式
		足場	【-】	掛m ²	式
		支保	【-】	空m ³	式
		蓋	【-】	枚	枚
		マンホール	【-】	箇所	箇所
		通気孔	【-】	箇所	箇所
		ステップ	【-】	個	個
作業土工	床掘	【-】	m ³	式	
	埋戻	【-】	m ³	式	

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位		
計器類室工	基礎材	均しコンクリート	【材料、規格】	m ²	m ²		
		コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
		鉄筋	【規格】	m ³	m ³		
		型枠	【規格】	t	t		
		足場	【-】	m ²	式		
		支保	【-】	掛m ²	式		
		蓋	【-】	空m ³	式		
		マンホール	【-】	枚	枚		
		通気孔	【-】	箇所	箇所		
		ステップ	【-】	箇所	箇所		
		付帯施設設置工	ネットフェンス	フェンス扉	【形式、規格】	m	m
				敷砂利	【形式、規格】	組	組
				掘	【材料、舗装厚】	m ²	m ²
					埋戻	【-】	式
制水弁室工	基礎材	均しコンクリート	【材料、規格】	m ²	m ²		
		コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
		鉄筋	【規格】	m ³	m ³		
		型枠	【規格】	t	t		
		足場	【-】	m ²	式		
		支保	【-】	掛m ²	式		
		蓋	【-】	空m ³	式		
		マンホール	【-】	枚	枚		
		通気孔	【-】	箇所	箇所		
		ステップ	【-】	箇所	箇所		
		掘	【-】	個	個		
		埋戻	【-】	箇所	箇所		
		振れ止め金具	【-】	箇所	箇所		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位		
減圧水槽工	付帯施設設置工	ネットフェンス	【形式、規格】	m	m		
		フェンス扉	【形式、規格】	組	組		
		敷砂利	【材料、舗装厚】	m ²	m ²		
	作業土工	床掘	埋戻	【-】	m ³	式	
				【-】	m ³	式	
		減圧水槽工	基礎材	均しコンクリート	【材料、規格】	m ²	m ²
				コンクリート	【規格】	m ³	m ³
				鉄筋	【規格】	m ³	m ³
				型枠	【規格】	t	t
				足場	【-】	m ²	式
支保				【-】	掛m ²	式	
蓋				【-】	空m ³	式	
マンホール				【-】	枚	枚	
付帯施設設置工	ネットフェンス	フェンス扉	【形式、規格】	組	組		
		敷砂利	【材料、舗装厚】	m ²	m ²		
スラストブロック工	スラストブロック工	基礎材	【規格、敷厚】	m ²	m ²		
		型枠	【-】	m ²	式		
		コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
		鉄筋	【規格】	t	t		

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
付帯工	用地境界杭工	境界杭	【規格、施工区分】	本	本
		埋設物表示工	【規格】	m	m
法面工	植生工	種子散布	【施工規模】	m ²	m ²
		植生マット	【材料区分、規格】	m ²	m ²
		植生シート	【材料区分、規格】	m ²	m ²
		繊維ネット	【材料区分、規格】	m ²	m ²
		筋芝	【材料区分、規格】	m ²	m ²
		芝付	【材料区分、施工区分】	m ²	m ²
		人工芝付	【材料区分】	m ²	m ²
		客土吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
		植生基材吹付	【材料種別、吹付厚】	m ²	m ²
		モルタル吹付	【材料規格、吹付厚】	m ²	m ²
耕地復旧工	水田復旧工	コンクリート吹付	【材料規格、吹付厚】	m ²	m ²
		表土掘削・埋戻	【施工区分、表土厚】	m ²	m ²
		暗渠排水	【規格】	m	m
		畦畔復旧	【天端幅】	m	m
		表土掘削・埋戻	【施工区分、表土厚】	m ²	m ²
		心土破碎	【耕起深さ】	ha	ha
道路復旧工	路体盛土工	流用土路体	【-】	m ³	m ³
		購入土路体	【-】	m ³	m ³
		発生土路体	【-】	m ³	m ³
		採取土路体	【-】	m ³	m ³

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
—	路床盛土工	流用土路床 購入土路床 発生土路床 採取土路床	【—】 【—】 【—】 【—】	m ³ m ³ m ³ m ³	m ³ m ³ m ³ m ³	
	—	路床安定処理工	【添加材種別】	m ²	m ²	
	—	舗装準備工	【補足材種別】	m ²	m ²	
	—	アスファルト舗装工	下層路盤 上層路盤 基層 表層	m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ²	
	—	コンクリート舗装工	下層路盤 上層路盤 コンクリート舗装 目地材	m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ²	
	—	砂利舗装工	敷砂利	m ²	m ²	
	—	道路用側溝工	鉄筋コンクリートU形 鉄筋コンクリート側溝 L形側溝 自由勾配側溝 側溝蓋	m m m m 枚	m m m m 枚	
	—	安全施設工	ガードレール ガードケアー ガードパイプ	m m m	m m m	
	—	—	—	【規格】 【規格】 【規格】	m m m	m m m
	—	—	—	【種類、規格】 【種類、規格】 【種類、規格】 【種類、規格】 【種類、規格】	m m m m 枚	m m m m 枚
	—	—	—	【材料、舗装厚】	m ²	m ²
	—	—	—	【材料、仕上り厚】 【材料、仕上り厚】 【材料、舗装厚】 【材料、舗装厚】	m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ²
	—	—	—	【材料、仕上り厚】 【材料、仕上り厚】 【材料、舗装厚】 【材料、規格】 【材料、舗装厚】	m ² m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ² m ²

工 種 (B-1 レベル)	種 別 (B-2 レベル)	細 別 (B-3 レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
水路復旧工	区画線工	区画線	【種類、幅】	m	m
	緑石工	アスファルトカーブ 境界ブロック	【種類】 【種類、規格】	m m	m m
水路復旧工	プレキャスト水路工	土工	【-】	m	m
		鉄筋コンクリートU形	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリートベンチリュム	【規格】	m	m
		鉄筋コンクリート柵渠	【規格】	m	m
		速心力鉄筋コンクリート管	【規格】	m	m
		分水槽	【規格】	箇所	箇所

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～管繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～管繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共同体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～管繕費)」参照]					

工種区分 (A-1レベル) 08 畑かん施設工事

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工を除く)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
土工	作業土工	床掘	【一】	m ³	式
	作業残土処理工	埋戻	【一】	m ³	式
構造物撤去工	構造物取壊し工	作業残土処理	【一】	m ³	式
		コンクリート構造物取壊し	【構造物区分】	m ³	m ³
		石積取壊し	【一】	m ³	m ³
		舗装版取壊し	【舗装種別、舗装厚】	m ²	m ²
		殻運搬	【殻種別】	m ³	m ³
殻運搬・処理	【殻種別】	m ³	m ³		
管体基礎工	砂基礎工	砂基礎	【材料】	m ³	m ³
	砕石基礎工	砕石基礎	【材料】	m ³	m ³
	コンクリート基礎工	コンクリート基礎	【材料、規格】	m ³	m ³
管体工	硬質ポリ塩化ビニル管布設工	硬質ポリ塩化ビニル管	【規格】	m	m
		硬質ポリ塩化ビニル管継手材	【規格】	個	個or式
	ダクタイル鉄管布設工	ダクタイル鉄管	【管径、管種】	m	m
		異形管	【管径、管種】	本	本
継輪	【呼び径、形式】	本	本		

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
構造物工	炭素鋼管布設工 弁設置工	炭素鋼管	【規格】	m	m	
		弁類	【種別、口径】	基	基	
	分水工設置工 排泥弁室工 空気弁室工 流量計室工 制水弁室工 スラストブロック工	マンホール 保護ボックス	マンホール	【-】 【規格】	箇所 組	箇所 組
			保護ボックス	【-】 【規格】	箇所 組	箇所 組
		マンホール 保護ボックス	マンホール	【-】 【規格】	箇所 組	箇所 組
			保護ボックス	【-】 【規格】	箇所 組	箇所 組
		マンホール 保護ボックス	マンホール	【-】 【規格】	箇所 組	箇所 組
			保護ボックス	【-】 【規格】	箇所 組	箇所 組
		基礎材 型枠 コンクリート	基礎材	【規格、敷厚】	m ²	m ²
			型枠	【-】	m ²	式
	コンクリート	【規格】	m ³	m ³		
付帯工	用地境界杭工 埋設物表示工	境界杭	【規格、施工区分】	本	本	
		埋設物表示工	【規格】	m	m	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位
末端工	給水栓設置工	給水栓 引き込み管	【規格】 【管径、管種】	箇所 m	箇所 m
	散水支管設置工	散水支管設置	【規格】	m	m
	散水器具工	スプリンクラー	【規格】	箇所	箇所
耕地復旧工	水田復旧工	表土掘削・埋戻 暗渠排水 畦畔復旧	【施工区分、表土厚】 【規格】 【天端幅】	m ² m m	m ² m m
	畑地復旧工	表土掘削・埋戻 心土破碎	【施工区分、表土厚】 【耕起深さ】	m ² ha	m ² ha
	舗装準備工	不陸整正	【補足材種別】	m ²	m ²
道路復旧工	アスファルト舗装工	下層路盤	【材料、仕上り厚】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料、仕上り厚】	m ²	m ²
		基層	【材料、舗装厚】	m ²	m ²
		表層	【材料、舗装厚】	m ²	m ²
	コンクリート舗装工	下層路盤	【材料、仕上り厚】	m ²	m ²
		上層路盤	【材料、仕上り厚】	m ²	m ²
		コンクリート舗装 目地材	【材料、舗装厚】 【材料、規格】	m ² m ²	m ² m ²
砂利舗装工	砂利舗装	【材料、舗装厚】	m ²	m ²	

工 種 (B-1レベル)	種 別 (B-2レベル)	細 別 (B-3レベル)	規 格	積算単位	工事数量 表示単位	
道路側溝工	道路用側溝工	鉄筋コンクリートU形	【種類、規格】	m	m	
		鉄筋コンクリート側溝	【種類、規格】	m	m	
		L形側溝	【種類、規格】	m	m	
		自由勾配側溝	【種類、規格】	m	m	
		側溝蓋	【種類、規格】	枚	枚	
	安全施設工	ガードレール	【規格】	m	m	m
		区画線	【種類、幅】	m	m	m
	縁石工	アスファルトカーブ	【種類】	m	m	m
		境界ブロック	【種類、規格】	m	m	m
	水路復旧工	土水路工	土水路	【-】	m	m
プレキャスト水路工			【規格】	m	m	
鉄筋コンクリートU形		鉄筋コンクリートベンチリュム	【規格】	m	m	
		鉄筋コンクリート柵渠	【規格】	m	m	
		遠心力鉄筋コンクリート管	【規格】	m	m	
分水槽	【規格】	箇所	箇所			

費目区分 (A-2レベル) 直接工事費 (仮設工)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「仮設工」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「共通仮設 (事業損失防止施設費～営繕費)」参照]					

費目区分 (A-2レベル) 官貸額・支給品費

工種 (B-1レベル)	種別 (B-2レベル)	細別 (B-3レベル)	規格	積算単位	工事数量 表示単位
[共通体系ツリー「官貸額・支給品費」参照]					